

群 教 七	G15 - 01
	平 25. 249集
	高・キャリア

普通科高校のキャリア教育において、 キャリアプランニング能力を高める指導の工夫 — コーチングを生かした二者面談と、事前の活動を通して —

長期研修員 鈴木 恵美子

キーワード 【キャリア教育 二者面談 コーチング 情報活用 キャリアプランニング能力】

I 主題設定の理由

中央教育審議会答申（2011）では、高等学校普通科の進路指導において、将来の職業選択が置き去りで、大学などの高等教育への進学指導偏重との指摘がある。また、PISAの2006年調査では、日本の高校生の成績はおおむね良好であるが、教科学習への自信や自分の将来のために教科学習に取り組もうという意識が、諸外国と比較して低いことが明らかになった。これらを背景として、学校での学習と自分の将来との関係に気付かせ、学習意欲の向上につなげるキャリア教育が求められている。

また、同答申によれば、80%余りの高校でキャリア教育の年間指導計画を作成しており、キャリア教育を肯定的に受け止める教員も年々増加している。しかし、リクルート発行「Career Guidance 2012.2 No. 40」では、進路指導の課題として、第一に生徒の進路選択・決定能力の不足、次いで学習意欲の低下が挙げられている。キャリア教育が推進されている現在も、明確な進路目標をもち、その実現に向けて意欲的に学習することが依然として課題であることが分かる。

協力校は大学進学に重点をおいた普通科高校である。3年間を見通し、基礎的・汎用的能力の育成を目指したキャリア教育の指導計画を作成し、1、2年生では体験活動、3年生では進学指導を中心にした取組を展開している。生徒はこれらの活動に積極的で、進路を考える上で有意義であると回答している。しかし、進路意識や学習意欲が高まらないまま受験期を迎えてしまい、自分の学力で合格可能な進学先を選ぶ傾向がある。この原因として、進路にかかわる知識の不足や、様々な情報を総合的に判断する能力の不足が挙げられる。そのため、進路選択に迷うことが多く、学習課題を明らかにすることが難しいために、適切な学習計画を立てることができないと考えられる。

2年生11月は、進学を目指す生徒にとって、進路の方向性を見いだすことや学習への意識を高めることが求められる非常に重要な時期である。そこで、個々の生徒の指導場面である二者面談に着目し、事前の活動を含めたプログラムを作成しようと考えた。特に二者面談に生徒自身の意思決定を促すコーチングの手法を取り入れた。このプログラムの実践を通して、進路選択に基づく適切な学習計画を立案することで、キャリアプランニング能力を高められると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

高校キャリア教育において、クラス全体での活動で進路や学習に関する情報を処理・活用し、グループでの活動で進路選択や学習課題に対して自分の考えを広げる。その後、コーチングを取り入れた二者面談を通して生徒自身が進路選択に基づいた学習計画を立案することで、キャリアプランニング能力が高まることを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

本研究ではキャリアプランニング能力の高まりを、以下の三つの見通しに沿って見取るものとする。

1 進路を多面的・多角的に考え、学習課題を発見する

クラス全体での活動で、職業や学習に関する情報を処理・活用することで、生徒が進路について多面的・多角的に考え、学習課題を発見することができるであろう。

2 進路選択や学習課題に関する考えを広げる

グループでの活動で、意見を出し合って互いの考えを知ること、個々の生徒の進路選択や学習課題に関する考えを広げることができるであろう。

3 進路選択に基づいた適切な学習計画を立てる

二者面談で、コーチングを利用して生徒の考えを引き出すことで、進路の方向性や学習課題を明らかにし、適切な学習計画を立てることができるであろう。

IV 研究内容の概要

本研究は、2年生11月の二者面談において事前の活動を含めたプログラムを実践し、キャリアプランニング能力を高めることを目指すものである。

事前の活動（総合的な学習の時間4時間）

◇職業に関する活動（1、2時間目）

- ・一つの職業に関する様々な情報を、働く上で都合が良いか悪いか、努力で変えられるかかえられないかという視点で分類することによって、職業を多面的・多角的に考える【見通し1】。
- ・4種類の職業の資料を基に、グループ毎に1時間目と同様の分類を行う。さらに、それぞれの職業の特徴について発表し、個々の生徒が考えを広げる【見通し2】。

◇学習に関する活動（3、4時間目）

- ・卒業生や自分たちの学習状況に関する情報を処理・活用し、個々の生徒が自己の学習状況を振り返り、自分の学習課題を発見する【見通し1】。
- ・自分の学習課題を付箋紙に書き出し、グループ内でKJ法を用いて整理する。さらに自分の学習課題を明確にして具体的な学習方法を考え、個々の生徒が考えを広げる。【見通し2】。

二者面談

「クライアントの考えを信じる」「答えはクライアントがもっている」というコーチングの姿勢で、「傾聴」「質問」「承認」のスキルを利用して生徒の考えを引き出すとともに、問題解決型の「OSKARモデル」に沿って面談を進め、進路選択に基づいた学習計画を立てる【見通し3】。

* 適切な時期に、計画に沿った学習ができたかを確認し、学習計画の振り返りをする予定である。

V 研究のまとめ

1 成果

- 二者面談において、実際に指導した教員からは、コーチングを意識することにより「これまでの面談と比べて、生徒の考えをたくさん引き出すことができた」という意見があり、二者面談を充実させることができたと考ええる。
- 職業に関する事前活動では、「これまでは職業を表面的にしか見ていなかったが、様々な情報を知る必要がある」「働く上で職業を多面的に見ることができた」「同じ情報でも人それぞれとらえ方が異なることを知った」という意見、学習に関する事前活動では、「同じような課題をもっている人が多いことに気付いた」「同じ学習課題でも様々な学習方法があったので参考にしたい」という意見が上がった。事前の活動は、98%の生徒が役に立ったと述べており、生徒の考えを広げ、二者面談に効果的であったと考える。
- 本研究の活動全体を通して、96%の生徒が「以前より具体的な学習計画を立てられるようになった」と述べていることから、二者面談と事前の活動によりキャリアプランニング能力を高めることができたと考ええる。

2 課題

- キャリアプランニング能力をさらに高めるためには、継続的に活動を行う必要がある。高校3年間を通した系統的な指導プログラムを作成し、その有効性についても検証する。

VI 研究の内容

1 キャリアプランニング能力とは

キャリアプランニング能力とは、キャリア教育で求められている基礎的・汎用的能力の一つである。高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省，2012）によれば、「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力とされている。また、具体例として将来設計、選択、行動と改善等が挙げられている。本研究では、「職業と学習や進路に関する情報を処理・活用することを通して、進路の方向性を見いだすとともに学習課題を発見し、グループ活動で個々の生徒が考えを広げることによって、進路選択に基づいた適切な学習計画を立てられる能力」とする。

2 キャリアプランニング能力を高める三つのステップについて

表1は、協力校における3年間のキャリア教育の取組と、各学年の二者面談の位置付けを示したものである。本研究では、表2の2年生での二者面談に視点を当て、二者面談を通してキャリアプランニング能力を高めることとした。具体的には、二者面談とそれに向けた事前の活動を合わせて三つのステップを設定した。事前の活動として、まず全体で職業や学習に関する情報を処理・活用し、次にグループ活動で話し合うことによって、職業や学習に関する気付きや考えを広げることができるようにする。最後に二者面談で、コーチングを利用して生徒の考えを引き出すことによって、進路の方向性や学習課題を明らかにし、進路選択に基づいた適切な学習計画を立てられるように導く。以上の三つのステップを通して、キャリアプランニング能力が高まると考える。

表1 協力校におけるキャリア教育の取組と二者面談の位置付け

取組	
1年	●社会人講話 ●職業適性検査 ●大学訪問 ●インターンシップ ◎二者面談(11月上旬) ●卒業生からのアドバイス ●同窓生(大学4年生)からのアドバイス
2年	●社会人講話 ●大学研究 ●修学旅行 ●受験の心構え ◎二者面談(11月上旬) ●卒業生と3年担任団からのアドバイス ●同窓生(大学4年生)からのアドバイス
3年	●模擬試験について ●時事問題演習 ●小論文指導 ◎二者面談(必要に応じて適宜) ●入試科目・入試方式調べ ●三者面談(12月) ●出願校の検討

表2 各時期の二者面談で重視する主な内容

	時期	目的	取組
1年	11月上旬	文系・理系の選択と学習の振り返り	●進路希望に基づいた文系・理系の選択をする。 ●学習課題を明確にし、その解決に向けた学習計画を立てる。
2年	11月上旬	進路選択に基づく学習計画の作成	●進路選択に基づいた三年次の科目選択をする。 ●進路に基づく学習課題を確認し、解決に向けた学習計画を立てる。
3年	7月上旬	進学に向けた夏休みの学習計画の作成	●第一志望校に必要なとされる学力と自分の現在の学力を把握する。 ●学習課題を明らかにし、夏休みの学習計画を立てる。

(1) 進路を多面的・多角的に考え、学習課題を発見することとは

「高校生と保護者の進路に対する意識調査（リクルート，2011）」によると、将来について考えるとき「不安な気持ち」になり、特に学力不足と希望進路の実現に不安をもつ生徒が多い。最近ではキャリア教育が浸透してきたとはいえ、職業などの進路について学ぶ機会はまだまだ不十分である。そのため、進路に真剣に向き合っているにもかかわらず、進路選択ができない生徒も多い。進路の方向性を見だし、学習課題が明確になれば、適切な学習計画を立てやすくなるので、職業や学習に関する情報を処理・活用することを通して、生徒が進路について多面的・多角的に考え、学習課題を発見できるような活動とする。

(2) グループ活動で進路選択や学習課題に関する考えを広げることとは

生徒同士のグループ活動では、話し合いを通して新たな問題に気付くことや、自身の考えをさらに発展させることが期待できる。また、同じような課題を抱える生徒から参考になる意見をもらい、職業や学習に関する考えが広がることは、適切な進路選択をすることや学習課題を明確にしたり、適切な学習方法を考えたりすることに有効であると考えられる。概念化シートやKJ法を取り入れて、生徒同士が互いの意見を出し合い、自分の考えを広げられるような活動とする。

(3) 二者面談で進路選択に基づいた適切な学習計画を立てることとは

高等学校では、年間を通じて二者面談が数回行われている。面談の内容や進め方は個々の教員に任されていることが多く、教員が生徒の話聞いて状況を判断し、解決策を示してしまうことがよくある。本研究では、コーチングを利用して生徒の考えを引き出すことを通して、生徒自身に課題に対する目標や解決策を発見させる二者面談を行う。その際、教員は意見を挟まず、傾聴の姿勢を心掛ける。一方で、生徒が話に詰まってしまった場合や考えが出てこない場合には、適切な質問をはじめとした対応によって生徒自身の中にある考えを引き出せるようにする。また、承認の姿勢を示し、教員からの応援の意思を生徒に伝えることを大切にする。このような面談を実施すれば、進路の方向性を見だし、適切な学習計画を立てることができるようになり、キャリアプランニング能力が高まると考えられる。

3 二者面談にコーチングをどのように取り入れるかについて

従来の二者面談では、日常の様子や面談で分かったことを基に教員が生徒の状況を判断し、進路の方向性や学習課題等について指導・助言を与えることが多い。しかし、面談をした時点での個々の生徒の状況を十分に把握できていないとは限らず、さらに、生徒は教員からの指導・助言を肯定的に聞いても、実際には実行できないことが多いのも現実である。

コーチングは、スポーツやビジネスの世界の優れたコーチや優秀なビジネスマンが自然に行っている行為の共通点をまとめたものである。コーチングの考え方は、学校教育と同様に個人を育てることを基本にしている。学校での主な指導方法であるティーチングが知識や技能を教え込むという発想であるのに対して、コーチングは「クライアントの可能性を信じている」「答えはクライアントがもっている」「コーチはクライアントの味方である」という基本姿勢に基づき、可能性、意欲、能力などを引き出すという考えから生まれたものである。また、コーチングを行う際の基本スキルとして「傾聴」、「質問」、「承認」の三つがあり、生徒の考えを引き出し、方向性を明らかにし、やる気や自信を与えるのに有効な手段である。さらに、コーチングを利用した問題解決型の「OSKARモデル」は、クライアント自身が課題に対する目標を設定し、自分の現状を把握した上で解決の道すじを付けていくもので、生徒が進路選択に基づく学習計画を立てるために有効な手段である（図1）。

以上により、コーチングは教員と生徒の面談に適していると考えられるので、本研究において、教員と生徒の二者面談に利用しやすい指導プランを作成し、それに基づいて教員が面談をすることを通して、生徒が進路選択に基づいた適切な学習計画を作成できると考える。

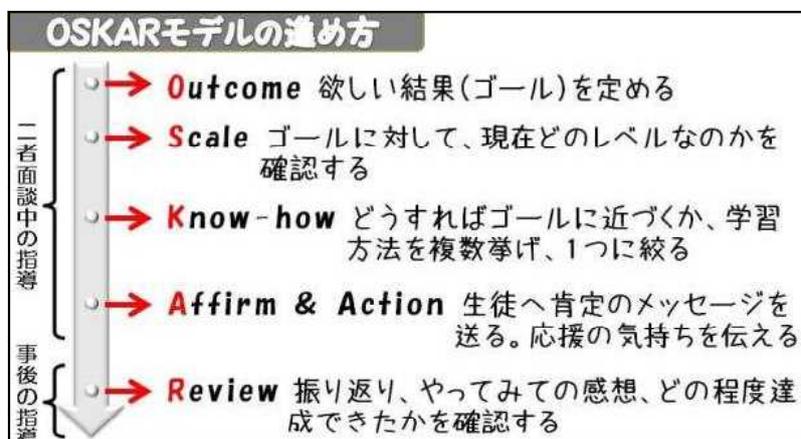
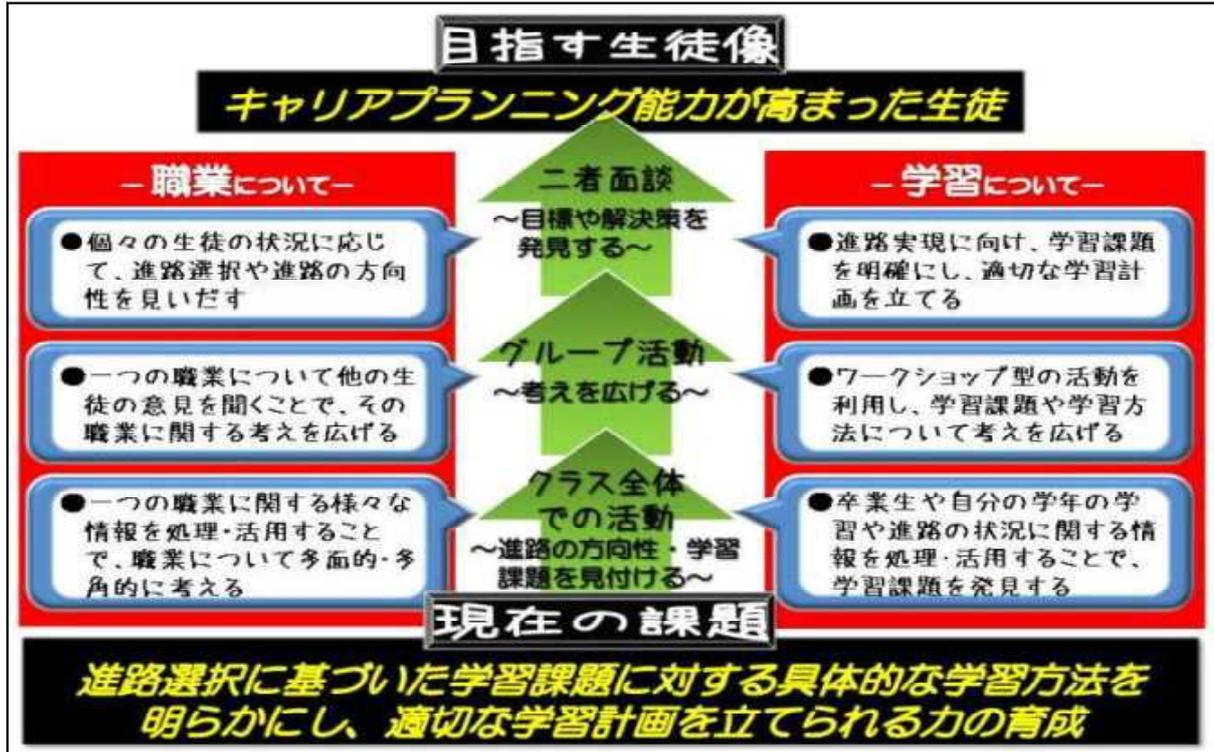


図1 OSKARモデルの概要

4 先行研究とのつながり

協力校において、2012年にキャリア教育についての研究「高等学校キャリア教育における基礎的・汎用的能力を育成する指導の工夫」が行われている。この研究においては、行事及び事前事後指導の充実を図るプログラムの作成や活用を通して、生徒の基礎的・汎用的能力を育成する指導の工夫が行われた。本研究は、協力校のキャリア教育で力を入れている職業や進路にかかわる活動と学習活動を結び付け、進路指導に役立てるためのものである。

5 研究構想図



VII 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

対象	研究協力校 高等学校2年次7クラス 278名
実践期間	平成25年10月中旬～11月上旬 50分×4時間、二者面談（1人20分間）
単元名	「2年生11月の面談において、進路選択に基づいた適切な学習計画を作成する」（総合的な学習の時間、放課後）
単元の目標	まずはクラス全体での活動で、生徒が情報を処理・活用して職業を多面的・多角的に考えたり学習課題を発見したりし、次にグループ活動で個々の考えを広げる。これらの活動を踏まえて、教員がコーチングを取り入れた二者面談を行うことを通して、生徒が進路選択に基づいた適切な学習計画を立てられるようにする。

2 検証計画

研究の仮説	検証の観点	検証の方法	処理・解釈
職業や学習に関する情報を処理・活用し、グループ活動で個々の生徒が考えを広げ、二者面談で進路の方向性を見いだしたり学習課題や学習方法を明らかにしたりすることが、適切な学習計画を作成することに有効である。	クラス全体での活動において、職業や学習に関する情報を処理・活用することが、職業を多面的・多角的に考えることや学習課題を発見することに有効であったか。	生徒の自己評価 生徒の自由記述 教員の観察評価	・生徒の自己評価 → 評価内容の分析 ・生徒の自由記述 → 記述内容の分析
	グループ活動において、ワークショップ型の活動を通して他の生徒と話し合うことが、職業や学習に対する個々の生徒の考えを広げることに有効であったか。	生徒の自己評価 生徒の自由記述 教員の観察評価	・教員の観察評価 → 自由記述の分析
	コーチングを取り入れた二者面談を行うことが、進路の方向性を見いだすことや学習課題、学習方法を明確にすることにつながり、進路選択に基づいた適切な学習計画を立てることに有効であったか。	生徒の自己評価 生徒の自由記述 教員の観察評価	

3 単元の指導計画

過程	時間	学習活動や指導上の留意点（◎教員の支援）	評価項目 【評価方法】
	1時間目	I 職業を多面的・多角的に考える活動 見通し1 一つの職業に関する様々な情報を処理・活用することを通して、職業を多面的・多角的に見る。	・活動全体に積極的に取り組むことができたか。 【生徒による自己評価】

職業に関する活動	<p>1 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入の場面で、大卒者の3年以内の離職率の高さについて触れ、職業について様々な情報を知ることの必要性に気付かせる。 ・「高校教師」の仕事内容について生徒に考えさせ、その後教員が実際の仕事内容を話すことによって、生徒が職業を表面的に見ていたり、自分で作り出したイメージで職業をとらえていることに気付かせる。 ・高校教師に関する情報資料を基に、情報を「働く上で都合の良いこと」などに分類させ、職業の特徴について考えさせる。 ・どのように情報を分類したかを数名の生徒に発表させ、情報のとらえ方はそれぞれ異なることに気付かせる。 ・教員が本時の活動をまとめ、職業を多面的・多角的に考えることの大切さに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、職業を多面的に見ることの大切さに気付くことができたか。 【生徒による自己評価】 【生徒による自由記述】 【教員による観察評価】
50分×2	<p>2 時間目</p> <p>II 職業についての考えを広げる活動 見通し 2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>一つの職業に関する様々な情報を基に、それぞれの生徒が意見を出し、グループで話し合いを行うことを通して、職業についての考えを広げる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・4～6人のグループで活動を進める。文系・理系ともに4種類の職業の中から、各グループが一つの職業を担当する。 ・概念化シートを利用して、「働く上で都合が良いかどうか」と「努力で変えられるかどうか」の二つの観点で情報を分類し、職業の特徴について考えさせる。 ・各グループが担当した職業についての発表を通して、生徒が様々な職業に関する考えを広げられるようにする。 ・教員が本時の活動をまとめ、グループで話し合うことや相手の話を聞くことを通して、生徒の職業に関する考えが広がることに気付かせる。 ◎グループで意見交換をしているときには、教員が考えを話す生徒の考えを制限してしまう恐れがあるので、教員が意見を挟み過ぎないようにする。 ◎活動が進んでいないグループには助言をするなどの支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動全体に積極的に取り組むことができたか。 【生徒による自己評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、職業に関する自己の考えを広げることができたか。 【生徒による自己評価】 【生徒による自由記述】 【教員による観察評価】
学習に関する活動	<p>3 時間目</p> <p>III 学習課題を発見する活動 見通し 1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>卒業生や現2年生の学習や進路に関する情報を処理・活用することを通して、自己の学習を振り返り、学習課題を発見する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生や現2年生の学習状況に関する資料を処理・活用する活動を通して、自分の学習状況を振り返り、課題に気付かせる。 ・自分の学習課題について考えさせ、ワークシートにまとめさせる。 ・資料から読み取れる内容について、教員から説明を聞くことを通して、2年生の11月に進路実現に向けた学習を始めることの大切さに気付かせる。 ◎図やグラフについて分かりやすく説明するため、プロジェクトを使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組むことができたか。 【生徒による自己評価】 ・自己の学習課題を振り返ることができたか。 【生徒による自由記述】 ・この時期の学習の大切さを理解できたか。 【生徒による自己評価】 【生徒による自由記述】 【教員による観察評価】
50分×2	<p>4 時間目</p> <p>IV 学習課題や学習方法に関する考えを広げる活動 見通し 2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>グループ活動を通して、個々の生徒の学習課題を整理することによって、生徒が自己の学習課題や学習方法に関する考えを広げる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学習課題を付箋紙に書き出し、グループでKJ法を用いて整理する。 ・KJ法の結果を基に、自分の学習課題について考えさせる。 ・自分の学習課題の中から一つ選び、学習方法について考えさせる。 ・数名の生徒に発表させ、同じような課題でも、様々な学習方法があることに気付かせる。 ・教員が本時の活動をまとめ、学習課題を明確にするとともに、具体的な学習方法を考えることの大切さに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動全体に積極的に取り組むことができたか。 【生徒による自己評価】 ・学習課題や学習方法に関する自分の考えを広げることができたか。 【生徒による自己評価】 【生徒による自由記述】 【教員による観察評価】
二者面談 一人20分	<p>V 進路選択に基づいた適切な学習計画を立てるための取組 見通し 3</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>コーチングを取り入れた二者面談を通して、これまでの職業と学習に関する活動を踏まえて、進路選択に基づいた学習課題の解決に向けた学習方法を考え、適切な学習計画を立てる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「うなずき」や「繰り返し」などで、生徒が話しやすい雰囲気を作り、生徒から学習課題や具体的な学習方法についての考えを引き出す【傾聴】。 ・生徒が回答に詰まる場面では、自由回答ではなく、数字や選択肢で答えられるような質問を取り入れ、生徒が答えやすいように工夫する【質問】。 ・今後の取組への期待を伝えることで、やる気や自信をもたせる【承認】。 ・二者面談は「OSKARモデル」を利用して進め、学習課題に対する目標設定や具体的な学習方法についての考えを引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択に基づいた学習計画を作成することができたか。 【生徒による自己評価】 【生徒による自由記述】 【教員による観察評価】

Ⅷ 研究の結果と考察

2年生11月の二者面談において、事前の活動4時間（職業に関する活動2時間、学習に関する活動2時間）とコーチングを取り入れた面談を行った結果と考察を1～3に、実践全体の結果と考察を4に示す。

1 進路を多面的・多角的に考え、学習課題を発見する

(1) 職業を多面的・多角的に考える活動（授業計画1時間目）

① 授業の概要と生徒の取組

協力校の生徒は職業を表面的なイメージでとらえていることが多い。高校の教員については「教科を教える」ということは知っていたが、一般的な仕事内容、勤務形態や必要な資格などを知っている生徒はほとんどいなかった。大卒者の3年以内の離職率は高い水準にあり、この原因として、就職前のイメージと就職後の実態とのギャップが考えられる。導入で大卒者の離職率について触れたところ、多くの生徒が衝撃を受けた様子で、職業について様々な情報を知り、多面的に職業を見ることの必要性を感じたようである。展開では、図2のような高校教師に関する様々な情報を載せた資料を生徒が読み、職業を選択する際に考慮すべき情報を書き出し、発表を行った。その中で、身近である高校教師の職業でも知らないことがたくさんあることや、仕事には苦しいこともたくさんあることに気付いていた。活動全体を通して、職業に関する様々な情報を処理・活用することで、一つの職業を多面的・多角的に考えることの必要性を学んだと考える。

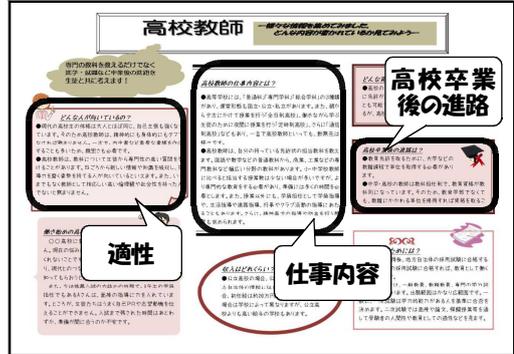


図2 職業に関する情報資料（高校教師の例）

② 結果及び考察

授業の振り返りのアンケートで、「職業に関する情報を処理・活用できましたか」という問いに、「よくできた」と「できた」と答えた生徒の合計は96%であった（図3）。授業の振り返りの自由記述では、職業を選択する上で様々な情報を知っていることの必要性を挙げた生徒が多かった。特に、「自分にとって都合の良い面ばかり見るのではなく、仕事のつらさにも目を向けることが大切だ」といったものや、「実際の仕事は自分が考えていたのとは大きく違った」といった記述が多かった（図4）。このような結果から、これまで職業について情報の一端しかとらえていなかったが、たくさんの情報を知ることによって全体像をイメージできたと考えられる。加えて、これまで職業について具体的にどのようなことを調べたらよいかを理解できたことも理由と考えられる。生徒はこの1時間目の活動で、職業に関する情報を処理・活用できたことで、進路について多面的・多角的にとらえることができたと考えられる。

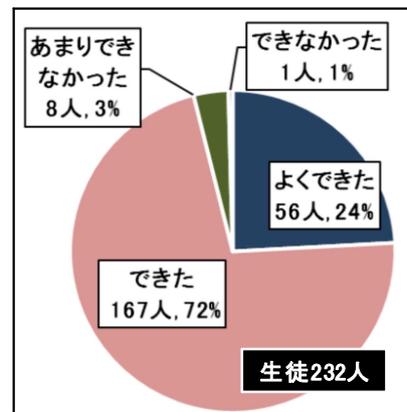


図3 取組の効果に対する生徒の回答

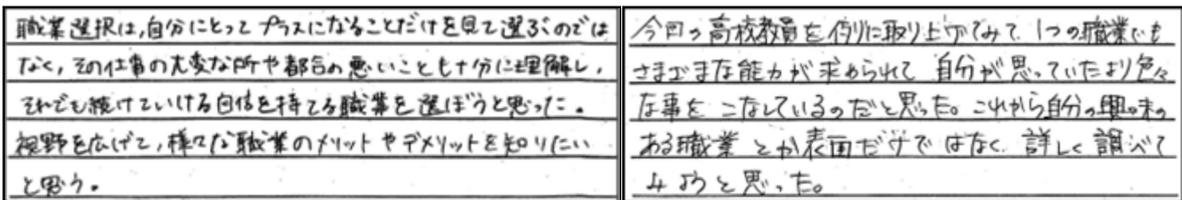


図4 授業の振り返りの自由記述

(2) 学習課題を発見する活動（授業計画3時間目）

① 授業の概要と生徒の取組

卒業生や自分の学年の学習状況を知ることで、生徒の問題意識や学習意欲を喚起し、自己の学習

を振り返って課題を発見する活動を行った。導入で、「いつごろから受験の意識を高めたいと思うか」という質問をした。結果は、「2年生12月まで」が最も多く、次に「2年生3月まで」と答える生徒が多かった。しかし、ベネッセ研究開発センター「高校データブック2013」によると、教員が生徒の受験意識が高まったと感じるのは「3年生4月から夏休み」が最多であることから、生徒は、自分自身が高めたいと考えている時期と数カ月の差があることを確認できた。展開では、図5の資料から卒業生の学習状況を読み取り、さらに現2年生の学習状況についても確認した。読み取った情報を基に卒業生と自分たちを比較し、卒業生も自分たちも学力は下降傾向だととらえ、今の時期から進路選択に基づいた学習をする必要があると気付くことができた。また、教員から資料に

関する説明や卒業生の進路状況を聞き、生徒は自分の学習を振り返って、図6のようなワークシートに学習課題を具体的に記入した。



図5 卒業生の学習状況に関する資料

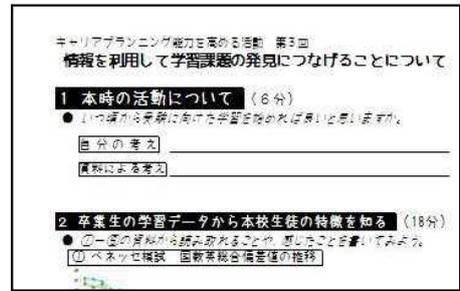


図6 3時間目に使用したワークシート

② 結果及び考察

授業の振り返りのアンケートでは、「卒業生や現2年生の学習状況を知ることは、自分の学習を振り返ることに役立ちましたか」という問いに、すべての生徒が「とても役に立った」「役に立った」のいずれかで回答した(図7)。授業の振り返りの自由記述では、図8のように「卒業生の学習状況を知り、自分の学習に対して焦りを感じた」といったものや、「自分の学習量の少なさを実感した」「学習方法を見直したい」といった記述が目立った。このような結果になった理由として、業者テストの結果と合格した大学の関係などの情報に加え、合格者の学習量がどの程度であったかを示すことで、

進路を意識した上で、自分の学習状況を客観的にとらえることができたことがあると考える。また、表やグラフから分析した本校生徒の特徴を分かりやすく生徒に伝えるために、教員がスライドを用いて説明したことも効果的であったと考える(図9)。

これらのことから、学習に関する情報を処理・活用することで、多くの生徒が学習課題を発見できたと考える。しかし、自己の学習課題についての記述では、図10のように科目名を挙げて具体的な学習方法を記述する生徒がいる一方、「学習時間を増やす」「集中して学習する」といった漠然とした記述も多く見られた。問題意識は強いものの学習習慣が気になり、学習課題まで考えが至っていない生徒も多いことが分かった。

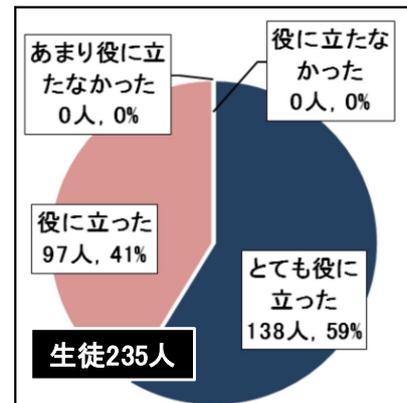


図7 取組の効果に対する生徒の回答

高校生の半分も過るものもそろそろ本腰を入れよう
 やり直しも思っているけど、いざいざとびきり頑張りたいけど、
 今回の授業のデータと現在の自分のデータと照らし合わせて
 しっかりやり直さないと合格以上には勉強したいのが目標から頑張りたい

図8 授業の振り返りの自由記述



図9 スライドを使った授業の様子

・現代文の授業中に、本文の内容などしっかりと確認しながら受ける。
 ・数学の復習をし、分からない問題は先生に質問をし、理解できるまでやる。
 とりあえず学習時間を増やす
 暇な時間を学習にうつす

図10 自らの学習課題についての記述

(3) 職業と学習に関する活動（1，3時間目）全体を通して

授業の振り返りのアンケートで、生徒の取組に対する自己評価は、「とても積極的に取り組んだ」「積極的に取り組んだ」の合計は職業について97%、学習について98%であった。特に、図11のように「とても積極的に取り組んだ」と答えた生徒は職業について29%、学習について39%であったことから、学習に対する関心が高いと考える。

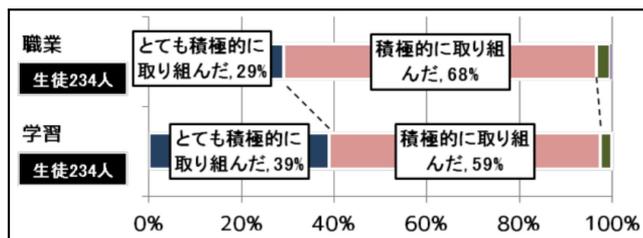


図11 活動へ取組む姿勢（職業と学習の比較）

また、単に資料の情報を読み取るだけでなく、ワークシートに自分の考えを書き出すことや項目ごとに情報を分類することを通して、生徒は情報を処理・活用することができたと考える。授業を行った協力校の教員からは、スライドを利用して授業を進めることで、生徒は集中して授業に取り組めたという意見があった。

2 進路選択や学習課題に関する考えを広げる

(1) 職業についての考えを広げる活動（授業計画2時間目）

① 授業の概要と生徒の取組

1クラス8グループに分かれ、職業を多面的・多角的に見ることを通して、職業に関する考えを広げる活動を行った。具体的には、文系クラス・理系クラスそれぞれで、表3の4種類の職業について分析した。グループで一つの職業に関する資料を用い、はじめに、資料から個々の生徒が職業を選択する上で必要だと感じる情報を付箋紙に書き出す。次に図12の概念化シートに「働く上で都合の良いこと」「働く上で都合の悪いこと」「働く人の努力で変えられること」「働く人の努力で変えられないこと」の4観点で付箋紙を分類した。分類する中で、「たくさんの知識が必要」という職業については、「働く上で都合の悪いこと」だが「働く人の努力で変わること」と判断するなど、多くの生徒が、働く上で都合の悪いことでも働く人の努力で変えられると前向きにとらえていた。また、「給料が安定している」という情報では、都合が良いと判断する生徒が多い中、努力が給料に反映されないという理由で都合が悪いと判断する生徒もおり、同じ情報でも人によってとらえ方が様々であることに気づき、職業に関する考えを広げることができた。

表3 職業に関する情報資料の種類

文系クラス	小学校教師 地方公務員	介護福祉士 税理士
理系クラス	小学校教師 地方公務員	看護師 プログラマー

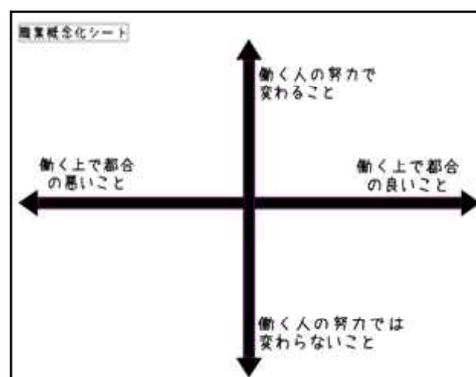


図12 概念化シート

② 結果及び考察

授業の振り返りのアンケートでは、「職業に関する見方や考え方を広げることができたか」という問いに「とても広げることができた」「広げることができた」と答えた生徒の合計は96%であった（図13）。これは、職業に関する活動1時間目に行ったアンケートの結果からほとんど変化がなかった。その一方、最も高い評価をした生徒は1時間目の24%から2時間目の35%に増加した。活動に取り組む姿勢に関しては、「とても積極的に取り組んだ」と答えた生徒は、1時間目の29%から2時間目の51%に増加していた（次頁図14）。これらの結果から、1時間目に職業に関する情報を処理・活

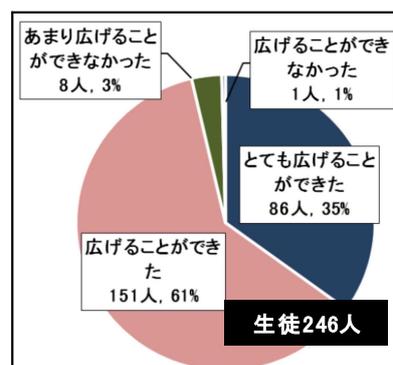


図13 取組の効果に対する生徒の回答

用したことが、考えを広げるといふねらいの達成に有効であるとともに、活動をやりやすくしたと考える。

授業の振り返りの自由記述では、図15のように「仕事は良いことだけでなく辛いことがたくさんあると分かった」や「職業を詳しく調べる必要があると思った」といった感想が多く挙げられた。また、「希望して就職した仕事でも都合の良いことばかりではない」や「人気のある職業でも都合の良い面と悪い面の両方がある」といった記述も見られた。一つの職業の様々な面を知ると同時に、情報を多面的・多角的に見ることの必要性に気付いたと考える。2時間目の活動を通して、グループ活動で意見を出し合い、互いの考えを知ることは、進路選択に関する考えを広げることにも有効であったと考える。一方、「あまり考えを広げることができなかった」を選択した生徒の一部に「仕事は辛そうだった」という記述が見られた。この生徒は、働く上で都合の悪い情報が強く印象に残ってしまい、働くことへの恐れを感じてしまったと考える。

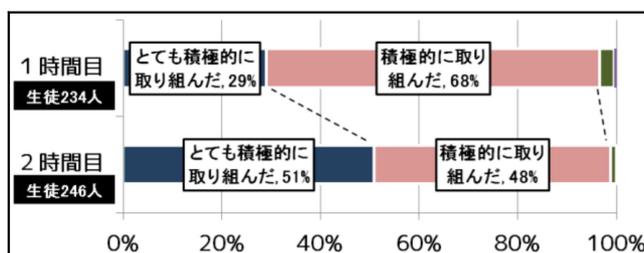


図14 1時間目と2時間目の取組への生徒の自己評価

職業についていろいろを書きだして概念化することに	仕事の内容や時間帯、仕事の責任などは
よって良い面や悪い面をたくさん知ることができた	人によって都合が良いか悪いかわかるもの
これからたくさんの職業について調べていきたい	だと思えました。人と関わる仕事という点は、
思った。	自分の強みが良い面(悪い面)にも気づかれました。

図15 授業の振り返りの自由記述

(2) 学習課題や学習方法に関する考えを広げる活動（授業計画4時間目）

① 授業の概要と生徒の取組

はじめに、3時間目の活動を基に生徒それぞれが学習課題を付箋紙に記し、4～6人のグループでKJ法シート（図16）を使って付箋紙を整理する作業を行った。次に、改めて自分の学習課題を振り返り、重要と考えるものをワークシートに書き出し、その中の一つについて具体的な学習方法を考える活動を行った。付箋紙に書き出す作業では、どの生徒も短時間でたくさんの学習課題を挙げていた。ワークシートの記述では、「英単語をしっかりと覚えていない」や「数学で分からない問題がたくさんある」といった具体的な課題が挙げられた（図17）。KJ法で学習課題をまとめる活動では、ほとんどのグループが活発な意見交換を行っていたが、「スマートフォンを使う時間が長い」や「やる気が起こらない」といった生活習慣や学習姿勢に話がそれてしまうグループもあった。学習課題や学習方法について生徒が発表する場面では、どの生徒も集中して話を聞き、参考となる学習方法をワークシートに記入していた。

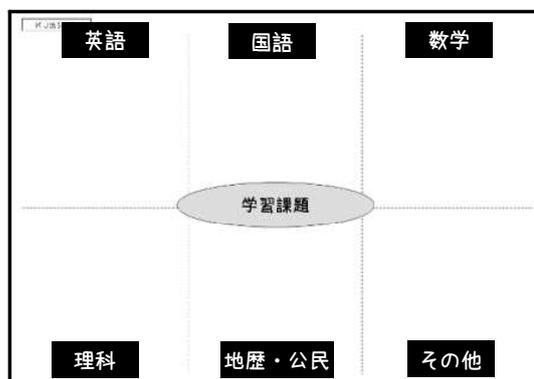


図16 KJ法シート

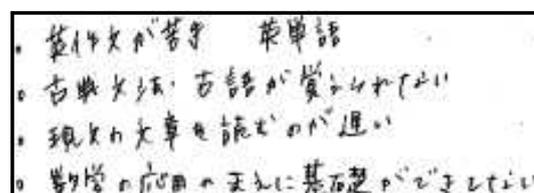


図17 自己の学習課題についての記述

② 結果と考察

授業の振り返りのアンケートでは、「活動が自分の学習課題の発見や学習方法を考える上で役に立ちましたか」という問いに「とても役に立った」「役に立った」と回答した生徒の合計は98%であった（次頁図18）。生徒たちの6月の学習量調査の結果は次頁図19のとおりで、学習時間が1日平均1時間未満の生徒が19%に上る。これらの結果から、多くの生徒が日ごろから学習時間を増やしたいと思いつつも、自分の学習課題や学習方法についてあまり考えていなかったと考えられ、

本時の活動が自分の学習を振り返るよい機会となったと考える。また、授業の振り返りの自由記述に図20のような記述が多いことから、学習課題や学習方法に関する考えが広がったと考える。

一方、生徒が記述した学習課題や学習方法は、図21のように、実践する上であまり具体的とは言えないものも多い。特に、生活習慣や学習姿勢に関することばかり記述した生徒もいた。これは、家庭学習をしなければと思いつつも、学習時間を確保できていないことを強く意識していることが原因だと考える。このように、生徒の考える学習課題や学習方法には課題があり、継続的に教員が指導を行うことや生徒同士で話し合うことが必要だと考える。

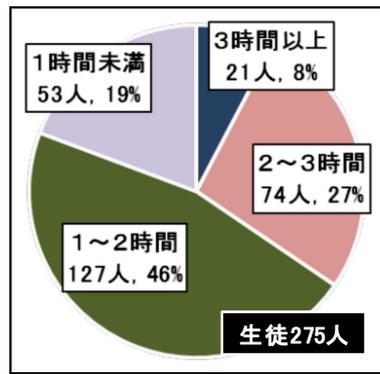
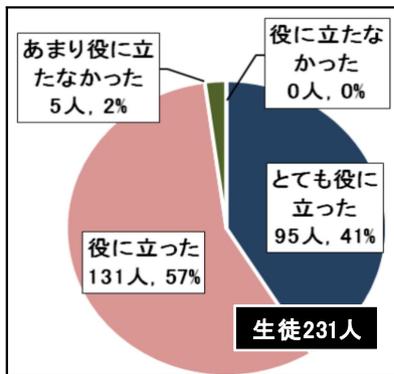


図18 取組の効果に対する生徒の回答

図19 現2年生6月の学習量の割合

勉強方法は一つではないと思った。また、自分のことが単元ごとに、学習方法は、どれも異なると思った。早く自分の身につけやすい学習方法を見つけることが大切だと思った。
やらなければいけない課題がたくさん見つけて、自分が何をすればいいのが明確にしなければいけないと思った。

図20 授業の振り返りの自由記述

課題 英語の文法、熟語、単語
学習方法 家に帰ってやる(他のことをやるとそれに集中しにくいから) 2冊の勉強を2冊(年次の課の所で参考書を見ることが理解できず見つけた。その理解を深める。

図21 学習課題と学習方法についての記述

(3) 職業と学習に関する活動(2, 4時間目)全体を通して

グループ活動における取組について、授業の振り返りのアンケートで「とても積極的に取り組めた」「積極的に取り組めた」の合計は、職業について99%、学習について98%であった(図22)。また、図23のように、「とても積極的に取り組めた」という生徒の割合は、クラス全体での活動と比べて高く、特に職業に関するグループ活動では50%を超えた。グループ活動に関する教員の感想には「グループでは指示が伝わりにくい」「慌ただしくて、授業が進めにくかった」「生徒は頑張っていたが、時間設定が苦しく生徒が大変そうだった」といった意見が挙げられた。しかし、生徒の振り返りには

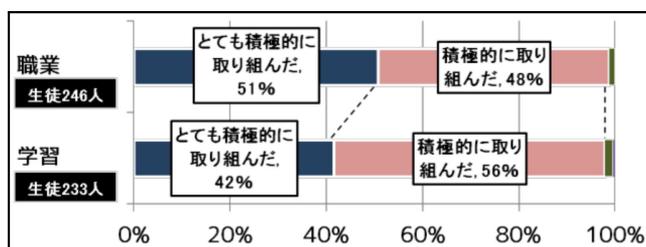


図22 グループ活動へ取組む姿勢(職業と学習の比較)

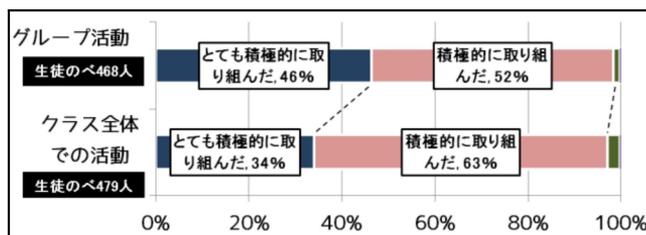


図23 グループ活動とクラス全体での活動へ取組む姿勢の比較

「慌ただしかった」「大変だった」といった記述は見られなかった。これらの結果から、グループで行う活動は生徒の積極性を高めることや達成感をもたせることに効果があると考えられる。

グループ活動で意見を出し合って互いの考えを知ることが、生徒の進路選択や学習課題の発見に際し、考えを広げることができたかどうかについては、活動を始める前の個々の生徒の進路意識や学習状況に違いがあるため到達度に違いがあるものの、図15や図20で示した授業の振り返りの自由記述から、この取組を始める前に比べて考えを広げることができた生徒が多く、有効であったと考える。

3 進路選択に基づいた適切な学習計画を立てる

(1) 適切な学習計画を立てるための取組

① コーチングを取り入れた二者面談の概要

2年生11月に一人20分を目安に二者面談を行った。この時期の目的は、進路に合わせた3年次の科目選択と、進路選択に基づいた適切な学習計画の作成である。教員はコーチングの基本スキルである「傾聴」「質問」「承認」を意識し、コーチングによる面談のモデルである「OSKARモデル」を基に二者面談を行った。

② 結果と考察

すべての活動終了した後に行ったアンケートでは、「事前の活動4時間と二者面談を通して、以前よりも適切な学習計画を立てられるようになったと思いますか」という問いに、「とてもそう思う」「そう思う」と答えた生徒の合計は98%であった(図24)。振り返りの自由記述では、「学習計画を立てて学習することの大切さに気付いた」や「量だけでなく、何をやるのかをしっかりと考えようと思った」、「無理な計画を立てず、実行できるようなものを作る」などの記述が多かった。

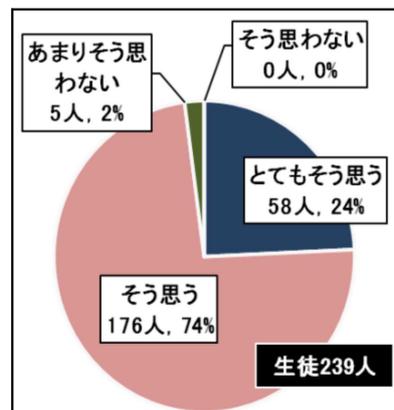


図24 取組の効果に対する生徒の回答

学習計画については、どの生徒も具体的に計画を記入していた。多くの生徒が、図25のように、どのような教材を使い、

どのような学習方法で取り組むかを細かく記入しており、実際の学習に生かすことを考えて、真剣に作成したと考える。しかし、「いつその学習をするのか」「いつ頃までにその課題を完成させるのか」といった、時期や期間についての記述がないものもあり、不十分な面も見られた。進路実現を目的とした学習では「いつまでにその学習目標を達成するのか」といった予定を立てることも重要である。このような記述になったのは、学習計画を立てることに慣れないため、時期や期間まで考えが至らなかったと考える。教員からは、「生徒一人一人が『こうしようと思う』という意見が言えるようになった」「学習量が増えてきている」といった良い効果が挙げられる一方、「適切な学習ができるようになるには今後も支援が必要」「すでに学習への意識が薄れ始めている生徒がいる」といった課題も挙げられた。今後もホームルームや授業での声かけや、定期的に二者面談を行う必要があると考える。

学習目標 (最終的な到達点)	数学で常に45~50点は普通にとれるようになる。 英単語を覚える。
第一段階の目標 (中間的な到達点)	高次方程式の公式を覚える。 分からない所があったら繰り返し解く。
学習方法など	まずは期末に向けて毎日2時間弱は勉強するようになる。 (1部活などで疲れていても) ・部活が休みで1日中使える時は5時間以上勉強する。 ・数学で、自分が理解不足な所、1人で問題が解けない所を自分でしっかり把握する。 ・答えも最初は分からなくても見ないで解けるか試してみる。

図25 学習目標と学習方法に関する記述

図25のように、どのような教材を使い、どのような学習方法で取り組むかを細かく記入しており、実際の学習に生かすことを考えて、真剣に作成したと考える。しかし、「いつその学習をするのか」「いつ頃までにその課題を完成させるのか」といった、時期や期間についての記述がないものもあり、不十分な面も見られた。進路実現を目的とした学習では「いつまでにその学習目標を達成するのか」といった予定を立てることも重要である。このような記述になったのは、学習計画を立てることに慣れないため、時期や期間まで考えが至らなかったと考える。教員からは、「生徒一人一人が『こうしようと思う』という意見が言えるようになった」「学習量が増えてきている」といった良い効果が挙げられる一方、「適切な学習ができるようになるには今後も支援が必要」「すでに学習への意識が薄れ始めている生徒がいる」といった課題も挙げられた。今後もホームルームや授業での声かけや、定期的に二者面談を行う必要があると考える。

(2) 教員が二者面談にコーチングを利用することの効果について

二者面談におけるコーチングの利用方法(次頁図26)についての資料やコーチングの進め方のシナリオ(次頁図27)を利用し、面談を行った。二者面談後の教員へのアンケートでは、コーチングの利用に関して「教員が話し過ぎないことを意識できた」「思った以上に生徒から意見を引き出すことができた」という意見や、「OSKARモデル」を用いて話を進めることによって「生徒は具体的な学習のビジョンがつかみやすかったようだ」「具体的な目標を見付けることができ、すぐに行動に移せた生徒がたくさんいた」という意見が挙げられた。生徒からも、「自分のことを話しやすかった」「いつもは何となく頑張ろうと思う程度だったが、何を学習したらよいかははっきりし

た」などの意見があった。これらのことから、二者面談にコーチングを利用することは有効だと考える。一方、教員からは「生徒によっては、20分の面談時間では足りなかった」「傾聴を意識して進めたところ、面談時間内に学習計画まで話が進まなかった」という意見もあった。このことから、教員がコーチングを基に二者面談を進めるには、「傾聴」「質問」「承認」の技法とOSKARモデルを十分理解した上で面談を行うことや、個々の生徒の状況に合わせて十分な時間を確保することが必要だと考える。

「どうして」や「なぜ」は禁句！

→「何」を使った質問は答えやすい
 ・NG なぜ●●できないの？
 ・OK ●●できない理由は何？
 ・OK ●●を邪魔するものは何？

質問の仕方の工夫を！

→事実を伝えやすい質問多！

・パターン1
 【教員】どれくらい頑張ってる？
 【生徒】全然がんばれてません

・パターン2
 【教員】最高を10とするとどれくらい頑張ってる？
 【生徒】6くらいしかやれてません

**「質問」が「質問」に
ならないように！**

解決のためには、なるべく多くの考えを引き出せるような質問をすることが大切です。ポイントはこれまでの成功体験を基に解決策を考えさせることです。そして、その中から最も実行可能なもの一つを選択させます。質問の仕方については、Yes/Noで答えられる閉じられた質問や、自由に答えられる開かれた質問があり、生徒の様子や面談の状況に応じて使い分ける必要があります。

質問の種類	質問の特徴
① Yes/Noで尋ねる質問	事実関係の確認や意思を明らかにするための方法
② Yesを引き出す質問	話したことの確認や自覚をうながすときの方法
③ Noを引き出す質問	やる気を高めたいときや高めの目標を設定するときの方法
④ 自由回答で意見を尋ねる質問	気持ちや思い、またアイデアを引き出すための方法
⑤ 自由回答で事実を尋ねる質問	5W1Hの質問を利用し、的確な情報を明らかにするための方法
⑥ 選択肢を選ぶ質問	答えにくい質問に対して、答えやすくする方法
⑦ 数字で答える質問	程度の違いを数字で表す方法

図26 コーチングを説明した資料の一部

Part 2
学習目標を自分で設定(Outcome)し、その達成に向けた方法(Know-How)を明確にする

目標が適切でなければ、適切な学習方法を考えることはできません。「とりあえず頑張って学習をする」から「目標達成のために学習する」に変えていく必要があります。目標と現状の差を正確に測り、いつまでに課題を達成するか考え合わせただ上で、短期目標（第一段階として何を達成するのか）を定めていく必要があります。ここでは「傾聴」に加えて、適切な「質問」によって生徒の考えを引き出します。

① Outcome 欲しいゴールを定める

教員 よし、じゃあ、三角関数で考えてみよう。どんなことを目標にする？
 生徒 模試で、偏差値50。学校のテストも、60点くらい取りたいかな...。ううん、65点かな。

② Scale ゴールに対する現在の位置を確認

教員 じゃあ、その目標をものとして「10」とすると、今の自分はいくつくらい？
 生徒 4か5。

③ Know-How ゴールに近づくための作戦を決める

教員 それを10にするためには、何すればよいと思う？
 生徒 教科書の例題と同じ、問題集の基本問題ができればいいって、先生が言ってた。
 教員 それを実現するためにどんな勉強をしようか。まずは4とか5をいきなり10にするのは大変だから、まずは6とか7を目指すのはどう？そのためには、まずは何をしたらいい？
 生徒 問題集を自分の力で解く。
 教員 自分の力で問題集を解くのか、他には？
 生徒 うーん...、自分で解けないから困ってるんだよね。あ、授業ちゃんと聞いて、分からないところをすぐ先生に聞こうかな。
 教員 どちらの方法でやってみる？やりやすいのはどちらだろう？
 生徒 とりあえず、授業を聞いて分からないところをすぐ先生に聞くようにする。
 教員 そうだね。とりあえずやってみて、また考えてもいいよね。授業をきいて、分からないところをすぐ先生に聞く。そうすれば、問題集を自力で解けるようになるかもしれないわ。

④ Affirm&Actoin 応接するメッセージを伝える

生徒 はい、頑張ってみます。
 教員 A子ならきっとできるよ。応援してるからね。

図27 面談の進め方のシナリオの一部

4 実践全体を通しての事前の活動と二者面談について

実践は、総合的な学習の時間4時間と2年生11月の二者面談で行った(図28)。

二者面談に向けた事前の活動は、

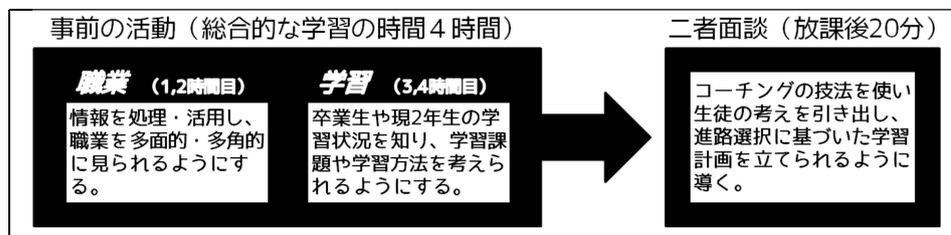


図28 活動全体の流れとねらい

職業と学習に関する活動を4時間の授業計画で行った。図29は「事前の活動に対する生徒の評価」のアンケート結果を表したものである。協力校では、キャリア教育の一環として職業に関係する体験を含めた取組を、高校入学以来たびたび行っている。職業に関する実践を通して、これまでのキャリア教育での取組を踏まえ、自分が働くことを意識した上で、職業に就くために必要な能力や資格、高校卒業後に進むべき進学先などを確認したと考える。その結果、仕事を続けていくためには、職業の表面的なことだけでなく、様々な情報を多面的・多角的に判断し、職業を理解した方がよいことに気付いたと考える。学習に関する実践を通して、進学に向けた学習を始めなければならないと思いつつも、行動に移すことができずにいた多くの生徒が、卒業生の学習状況や進学の状況を基に現実の厳しさを理解することによって、自分の学習を振り返って具体的な学習課題を挙げることができたと考える。次頁図30の教員の意見からも、事

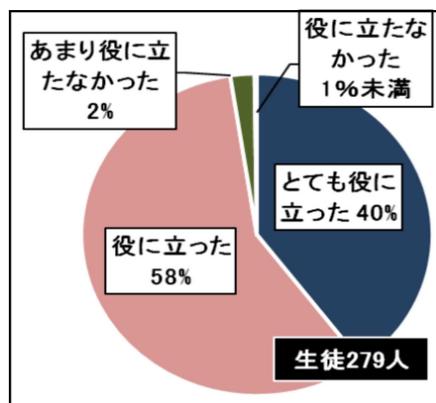


図29 事前の活動に対する生徒の評価

前の活動が、生徒が進路について考えるよい機会となったと考える。

二者面談では、教員がコーチングを面談に取り入れ、生徒が事前の活動を通して考えた進路や学習に関する考えを引き出すことによって、進路選択に基づいた適切な学習計画の作成に導くことができたと考える。20分という限られた時間設定の中で行ったため、すべての生徒に十分な面談が行えたとは言えないものの、

ほとんどの生徒が、実践前と比べて具体的な学習計画を立てられるようになった。

また、事前の活動と二者面談を通して、生徒からは図31のような感想が寄せられた。これらのことから、キャリアプランニング能力を高めることができたと考える。

生徒に関する意見

- 生徒が自分自身と向き合う良い機会となった。
- 良いアイデアで、道筋をうまく付けてあったので活動がやりやすかった。
- 学習に関する取組が特に意義深かった。
- スライドを使うことで、情報をリアルに感じることができた。

教員自身に関する意見

- スライドを使ったことで、スムーズに授業を進められた。
- 教員側も改めて勉強することができた。

図30 4時間の事前活動に対する教員の意見

改めて自分の学習習慣を見直すことで自分に何が足りないかが分かったし、授業で「
木東の卒業生の成績を見て、もっと本気でやらなければいけないことや大学進学の大難しさが
よく分かった。危機感が高まって不安になるけれどこの授業を受ける前よりやる気が高まった
ので、今できることを精一杯やって、目標を高くもって勉強をがんばりたい。

図31 活動全体を通しての生徒の振り返りの記述

IX 研究の成果と課題

1 成果

(1) 二者面談でコーチングを取り入れたことについて

二者面談にコーチングを取り入れ、「傾聴」「質問」「承認」の技法を用いて生徒の考えを引き出し、「OSKARモデル」を基に面談を進めた。そして面談を通して、進路選択に基づいた学習の問題を解決するために、目標設定をし、具体的な学習方法について計画を立てた。実際に面談を行う教員に対して、「傾聴」「質問」「承認」の技法と「OSKARモデル」に関する説明を行った。さらに、コーチングによる二者面談の進め方の例として、図27のようなシナリオを作成するとともに、シナリオを実演した音声ファイルも用意した。

実際に二者面談を参観すると、教員は「うなずき」や「繰り返し」を行い、「他には」などの声かけをすることで、生徒の考えを引き出していた。「傾聴」「質問」「承認」については、どの教員も面談にスムーズに取り入れていたと考える。「OSKARモデル」を利用して面談を進めることについては、一人の教員から、「面談初日には資料を見ながらだどだどしく話を進めていた。しかし、面談を繰り返すうちに、学習課題に対して求める目標、その目標に対する現在の到達度、目標達成に近づくための具体的な学習方法という一連の流れをスムーズに行うことができるようになり、生徒の考えを数多く引き出せるようになった。そして、いつもなら生徒が漠然とした感じで『頑張らなきゃいけないよ』と話しながら面談を終えていたが、今回の面談では『今日から〇〇をやっていきます』と生徒自身が明確に話しながら終わることができた」という意見があった。「OSKARモデル」を活用した面談は、慣れるまでにある程度の時間が必要であるものの、二者面談に有効だと考えられる。

(2) 事前の活動で様々な情報を処理・活用し、考えを広げることについて

二者面談では生徒の進路や学習方法などを一つの方向へ絞っていくことが多い。そうならないために本研究では、二者面談の事前の活動として総合的な学習の時間を4時間使い、生徒の進路や学習に関する考えを広げる活動を行った。具体的には、クラス全体での活動（1、3時間目）で様々な情報を処理・活用することを通して、職業を多面的・多角的に考えることや学習課題を発見した

上で、グループ活動（2、4時間目）を行い、生徒同士の話し合いや発表を聞くことを通して（図33と図34）、個々の生徒が職業や学習に関する考えを広げていった。図32の活動後の生徒の自由記述からは、考えを広げることができたことが分かる。それにより、生徒の職業に対する見方が広がり、学習目標や学習方法について選択肢を増やすことができ、これまで以上に自分を振り返って進路や学習に関して適切に判断することができるようになったと考える。実際に、実践を行った教員からは、「教員の問いかけに対して具体的な学習課題や学習方法を答えられるようになった」という意見が挙がった。

<p>職業に関する活動で出された意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○都合の良いことばかりの職業はないのだと思った。職業選択に迷う。 ○看護師に興味をもっていたが、働く人の努力で変わることが多く、働く上で都合の悪いことも多いと分かり、考え方が変わった。 ○「収入が一定」という内容でも、都合が良いと感じる人と、都合が悪いと感じる人がいて、様々なんだと思った。 <p>学習に関する活動で出された意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他の人の意見を聞いて、改めて自分の苦手なところを理解できた。 ○自分と同じ課題をもっている人が多かった。色々な学習方法を聞いて、やってみようと思うものがあつた。 ○すきま時間を活用するという意見は自分に合っていると思った。自分の学習方法を改善していきたい。

図32 生徒の自由記述



図33 概念化シートを利用した活動の様子



図34 グループで発表をする様子

2 今後に向けた課題

○ 系統的なプログラムの必要性について

今回の実践では、2年生11月の二者面談において、進路選択に基づく学習計画を作成するための活動を行った。しかし、進路の方向性と学習にかかわる二者面談は高校3年間で何度も行われており、なかでも1年生11月や3年生夏休み前の面談は重要である。1年生11月の二者面談では、2年次の文系・理系の選択と学習習慣の確立や苦手科目への取組について話し合う。また、3年生夏休み前には、第一志望の進学先の決定とその達成に向けた学習計画について話し合う。本研究のねらいである「進路選択に基づいた学習計画を立てる」ためには、継続的に指導を行う必要があるため、この二つの面談にも焦点を当て系統的なプログラムを作成する必要があると考える。

X 今後の展望

○ 系統的なプログラムの作成と実践・検証

本研究で行った、2年生11月の二者面談における進路選択に基づいた学習計画の作成は、2年生11月が受験に向けたスタートの時期であることを意識した取組である。このプログラムを高校3年間を通して系統立てたものにするために、まずは1年生11月の二者面談で「文系・理系の選択」を意識した取組を行う。具体的には、文系・理系の選択では「興味・関心や適性」「希望する職業」「大学等の進学先」「教科の得意・不得意」を意識し、総合的に判断する必要があること、学習では、教科・

科目に対する苦手意識が芽生え、学習課題が表面化する時期であることから、基礎・基本を重視した学習計画を立てられるような活動を行う。さらに3年生夏休み前の二者面談で「卒業後の進路実現」を意識した取組を行う。具体的には、第一志望校の受験の仕組みを理解し、自分の学習状況を振り返って、夏休み中の適切な学習計画を立てられるような活動を行う。本研究にこれらの取組を合わせれば、進路選択に基づいた学習計画を作成するための3年間の系統的なプログラムになると考えられる。表4は系統的なプログラムの概要を示したものである。

表4 系統的なプログラムの概要

	プログラムの主な内容	具体的な活動
1年生 11月	文系・理系の選択と基礎・基本を重視した学習計画を作成するための活動	学問分野や大学等の情報を処理・活用し、グループで学問や大学、自己の学習課題について考えを広げ、二者面談を通して基礎・基本を重視した学習計画を作成する。
2年生 11月	進路選択に基づいた学習計画を作成するための活動	職業や学習に関する情報を処理・活用し、グループで職業や学習について考えを広げ、進路選択に基づいた適切な学習計画を作成する。
3年生 夏休み前	進路実現に向けた夏休みの学習計画を作成するための活動	大学の受験科目などの入試情報や自分の学習状況に関する情報を処理・活用し、グループで入試情報や学習について考えを広げ、進路実現を目指した適切な学習計画を作成する。

<参考文献>

- ・株式会社リクルート 『Career Guidance 2012.2 NO.40』(2012)
- ・株式会社リクルート 『高校生と保護者の進路に対する意識調査』(2011)
- ・群馬県 『群馬県教育振興基本計画』(2009)
- ・厚生労働省 『若年者雇用対策に関する資料・データ』(2010)
- ・国立教育政策研究所生徒指導研究センター 『キャリア教育実態調査』(2011)
- ・国立教育政策研究所生徒指導研究センター 『キャリア教育を創る』(2011)
- ・国立教育政策研究所生徒指導研究センター 『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書』(2013)
- ・小山秀樹 著 『子どもの心に届く言葉、届かない言葉』 学研パブリッシング (2008)
- ・中央教育審議会 『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)』(2011)
- ・Benesse教育研究開発センター 『高校データブック2013』(2013)
- ・Benesse教育研究開発センター 『ダイジェスト版 大学生の学習・生活実態調査報告書』(2009)
- ・Benesse教育研究開発センター 『第2回 子ども生活実態基本調査』(2010)
- ・本間正人 松瀬理保 著 『コーチング入門』 日本経済新聞出版社 (2006)

<担当指導主事>

悴田 利行 上原 清司

2 年生 進路選択に基づく学習計画の作成

■ 1 時間目 【職業を多面的・多角的に考える活動】

- 1 **ねらい** 一つの職業に関する様々な情報を処理・活用することを通して、職業を多面的・多角的に考える。
- 2 **準備** 職業に関する様々な情報をまとめた資料、ワークシート（自己評価を含む）、プレゼンテーション資料（PC、プロジェクト使用）
- 3 **展開**

学習活動	時間	指導上の留意点及び支援・評価（◎支援、◇評価）
1 本時の活動の説明を聞く。	10分	・職業を意識すること、職業を多面的・多角的に見ることの大切さを説明する（大卒者の3年以内の離職率に関する資料などを活用する）。
2 職業を表面的なイメージでとらえていることに気付く（ここでは「高校教師」という職業について）。	10分	・高校教師の仕事のイメージを挙げさせる。その後、実際の仕事の内容（生徒が気付きにくいこと、ネガティブな面など）を具体的に説明する。 ・仕事の一面しか知らなかったことを理解させる。 ・仕事のイメージを挙げさせる場面では、席の近い者同士で話し合っってよいことを伝える。その際、気軽に話し合える雰囲気をつくる。
3-i 「高校教師」に関する資料を読んで、読み取った情報から以下の四つの項目に当てはまる情報を抜き出し、理由も含めてワークシートに記入する。 ①働く上で都合の良いこと ②働く上で都合の悪いこと ③働く人の努力で変えられること ④働く人の努力では変えられないこと	14分	・①～④の項目をあらかじめ確認させ、資料に書かれている情報を分類するように伝える。 ・①～④について、それぞれ生徒1名に理由を含めて発表させる。その際、机間支援で作業の進み具合を見ながら、発表させる生徒を選んでおく。
3-ii 上記の①～④について、一人ずつ発表をする。	8分	・発表時間が不足した場合は、教員が代読する。 ・発表しやすい雰囲気をつくる。 ◎発表中に繰り返しやうなずき、承認の姿勢を示す。
4 教員による本時の活動のまとめを聞き、自分の活動を評価し、感想を書く。	8分	・職業を多面的・多角的に見ることによって、職業を適切に判断することの大切さを伝え、進路の方向性を見いだすことに役立てられるようにする。 ◇活動全体に積極的に取り組むことができたか。 ◇職業に関する情報を処理・活用することができたか。 ◇職業を多面的・多角的に見ることの大切さに気付くことができたか。

職業を多面的・多角的に考えることについて

1 本時の活動について (10分)

- 職業について、いつ頃から意識できるとよいと思うか。

自分で考える時期 _____

資料を踏まえた時期 _____

- 大卒3年以内の離職率が高いのは、どんな職種だと思うか。

_____ , _____ , _____

2 職業について知る (10分)

- 「高校教員」の仕事とはどんなものだと思うか。

3 一つの職業に関する様々な情報を知る (22分)

- 資料に載っている情報の中から、次の①～④に当てはまると思うものを抜き出し、そう考えた理由についても考えよう。

① 働く上で都合の良いこと



② 働く上で都合の悪いこと



③ 働く人の努力で変えられること



④ 働く人の努力では変えられないこと



4 本時のまとめ (8分)

- ◇ 活動全体に積極的に取り組むことができましたか。
とても積極的に取り組んだ ・ 積極的に取り組んだ ・ あまり積極的に取り組めなかった ・ 積極的に取り組めなかった
- ◇ 職業に関する情報を処理・活用できましたか。
よくできた ・ できた ・ あまりできなかった ・ できなかった
- ◇ 本時の活動を通して、気が付いたことや考えたこと、これからやろうと思ったことなどを書いてみましょう。

- ◇ 担任からのコメント

2年 組 番 氏名 _____



高校教師

—様々な情報を集めてみました。

—どんな内容が書かれているか見てみよう—

教師（小・中・高）全体では、高校生の就きたい職業第2位！



どんな人が向いているの？

- 現代の高校生の体格は大人とほぼ同じ、自己主張も強くなっています。そのため高校教師は、精神的にも身体的にもタフでなければ務まりません。一方で、内申書など重要な書類を作成することも多いため、緻密さも必要です。
- 高校教師は、教科について生徒から専門性の高い質問を受けることがあります。日ごろから新しい情報や知識を吸収し、指導力を磨く姿勢をもてる人が向いているといえます。また、言うまでもなく教師として相応しい高い倫理観や社会性をもった人でないと務まりません。



働き始めの高校教師の悩みとは？

〇〇高校に勤める国語の教師Aさん。現在の悩みは、生徒が古典になかなか興味をもってくれないことです。Aさんは、物語の時代背景を説明したり、現代とのつながりを話すなど、なんとか古典の魅力を知らせようと授業を工夫しています。

また、今は推薦入試の大詰め時期で、3年生の学級担任でもあるAさんは、面接の指導に力を入れています。ところが、生徒たちはうまく自己PRや志望動機を伝えることができません。入試まで残された時間はあとわずか、準備が間に合うのか不安です。

高校教師の仕事内容とは？

- 高等学校には、「普通科」「専門学科」「総合学科」の3種類があり、運営形態も国立・公立・私立があります。また、朝から夕方にかけて授業を行う「全日制高校」、働きながら学ぶ生徒のために夜間に授業を行う「定時制高校」、さらに「通信制高校」などもあり、一言で高校教師といっても、勤務先は様々です。
- 高校教師は、自分のもっている免許状の担当教科を教えます。国語や数学などの普通教科から、商業、工業などの専門教科など幅広い分野の教科があります。小・中学校教師より専門的な教育をする必要があり、準備には多くの時間を必要とします。
- 授業以外にも、学級担任として学級指導や、生活指導や進路指導、行事やクラブ活動の指導にもあたります。また、進学・就職など卒業後の進路を生徒と共に考えます。



収入はどれくらい？

- 公立高校の場合、公務員となるため、地方自治体の俸給に従います。群馬県の場合、初任給は約20万円となります。私立の場合は学校によって異なります。



どんな資格が必要なの？

- 高校教師には中学社会、高校英語など科目ごとに免許があり、中学・高校の免許を同時に取得することも可能です。中学校には二種・一種・専修免許があるが、高校に二種はありません。



高校卒業後の進路は？

- 教員免許を取るために、大学の教育学部で単位を取得するのが一般的です。
- 中学校・高校の教師は教科担任制で、教員資格が教科別になっています。そのため、教育学部でなくても、教職にかかわる単位を修得すれば資格を取ることができます。



採用されるためには？

- 免許状を取得後、地方自治体の採用試験に合格するか、私立高校の採用試験に合格すれば、教師として働くことができます。
- 一般的に、一次試験では一般教養、教職教養、専門の学力試験が課されており、出題範囲はかなり広範囲です。一次試験は学力を中心に合否を決め、二次試験では面接や論文などを通して適性などを見る人が多いようです。

■ 2時間目 【職業についての考えを広げる活動】

- 1 **ねらい** 一つの職業に関する様々な情報を基に、それぞれの生徒が意見を出し、グループで話し合いを行うことを通して、職業についての考えを広げる。
- 2 **準備** 職業に関する様々な情報をまとめた資料（文型・理型各4種類）、ワークシート（自己評価を含む）、付箋紙（1グループ50枚、予備100枚）、概念化シート、マジック、プレゼンテーション資料（PC、プロジェクタ使用）

3 展開

学習活動	時間	指導上の留意点及び支援・評価（◎支援、◇評価）
1 本時の活動の説明を聞く（グループづくりと役割分担を決める）。	6分	<ul style="list-style-type: none"> ・4～6人で一つのグループをつくり、四つの職業から担当する職業の一つを決める。 ・グループでの話し合いを通して、選択した職業がどのような特徴をもっているのかをまとめ、最後に全体の前で発表することを説明する。 ・はじめに進行役、発表者を決めさせる。
2 職業に関する資料を見て、特徴的な情報を選び、付箋紙に記入する。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の見出しを見て、気になった情報から優先して読み、時間内に読み終えるように伝える。 ・気になった部分に、赤ペンで下線を引くなどし、後で付箋紙にまとめやすくさせる。 ・一枚の付箋紙には、一つの項目を記入させる。 ◎付箋紙には理由が分かるように、例えば「勤務時間」とだけ書くのではなく、「勤務時間が長い」「休日には必ず休める」など、具体的に文の形で表現できるように声をかける。
3 付箋紙を、概念化シート上に分類する。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・概念化シートを配り、使い方の説明をする。
4 完成した概念化シートを見て、どのようにその職業を説明するかを話し合う。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・概念化シートのすべての象限の情報を取り入れて、それぞれの職業の特徴をまとめるように伝える。 ・発表者は、制限時間で発表できるように簡潔にまとめるように伝える（1グループにつき2分）。
5 概念化シートを見せながら、グループごとにそれぞれの職業の特徴について発表する。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの職業につき最低一つのグループが発表を行う。 ・発表を聞くときには、メモは最小限にとどめ、話を聞くことに集中するよう伝える。
6 教員による本時の活動のまとめを聞き、自分の活動を評価し、感想を書く。	6分	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの職業に関する様々な情報をまとめることを通して、様々な角度からその職業をとらえて、職業の全体像をつかむことが大切であることを伝える。 ・グループで話し合うことを通して、職業に関する個々の考えを広げることができることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◇活動全体に積極的に取り組むことができたか。 ◇グループ活動に積極的に参加できたか。 ◇本時の活動を通して、自分の考えを広げることができたか。 </div>

職業に関する考えを広げることについて

1 本時の活動について (6分)

- グループ活動をする上での役割(進行役、発表者)を決める。

2 資料を読み、特徴的な情報を書き出す (10分)

- 資料全体に目を通す。気になったところにペン等で下線を引く。
- 例を参考にして、下線を引いた情報を簡潔に付箋紙に書く。

付箋紙への書き方(例)

労働時間が不規則

「労働時間」ではなく、具体的に!

*意味が分かり、簡潔なのがbetterです!

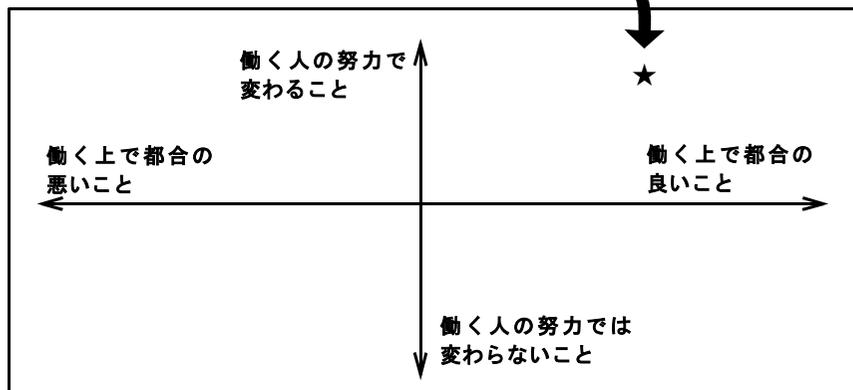
3 付箋紙を概念化シートに整理する (10分)

- 自分の付箋紙を概念化シートに分類する。他の生徒と一致しなくてもよいので、自分が適切だと考える位置に貼り付ける。

概念化シートの使い方(例)

生徒に分かりやすく話をする

どの領域・どの程度かを考えて、適切なところに貼り付ける



4 職業の特徴をまとめる (8分)

- 発表を通して、資料を読んでいない人に分かりやすく説明することを考える。

5 活動の発表 (10分)

- 他のグループの発表を聞いて、参考にできそうな情報を記す。

6 本時のまとめ (6分)

- ◇ 活動全体に積極的に取り組むことができましたか。
 とても積極的
積極的に取り組んだ
あまり積極的に取り組めなかった
積極的に取り組めなかった
- ◇ 職業についての見方や考え方を広げることができましたか。
 とても広げることができた
広げることができた
あまり広げることができなかった
広げることができなかった
- ◇ 本時の活動を通して、気が付いたことや考えたことなど、これからやろうと思ったことなどを書いてみましょう。

2年 組 番 氏名

地方公務員

(教師を除く)

一様々な情報を集めてみました。

どんな内容が書かれているか見てみようー

「高校生の就きたい職業」の第1位!

地方公務員の仕事内容とは?

- 働く場所は、市役所や町村役場、地方自治体議会、都道府県庁とその出先機関が主です。一般事務職以外に、消防士、保健師、獣医師、栄養士などの技術職があります。いずれも、地域住民に密着した場所で福祉や利益、安全のために働きます。
- 幅広い地方公務員の職種の中でも、もっとも多数を占めているのが行政一般職です。単なる事務職と思われがちですが、住民と直接対面する最前線に立つことで、サービス業としての公務員の心構えが必要です。例えば、住民から寄せられる様々な苦情や、多様化する要望に応えることが求められます。



どんな人が向いているの?

- 責任感が強く、物事を正確にやりとげる人
 - 地域住民のために働いているという使命感をもっている人
 - コミュニケーションをとるのが得意な人
 - 人の役に立つことや社会に貢献することに意義を感じる人
- * 一般事務職以外の消防士、保健師、獣医師、栄養士などの技術職については、専門の資格や技術に関する知識・技能も必要です。



〇△県庁に勤めるA先輩のアドバイス

「公務員の仕事は楽そう」と思っている人も多いと思います。私が入庁してすぐに配属されたのは観光交流課で、昼間は多くの電話対応に追われ、書類作成や関係部署との調整業務などは夕方以降に行っていました。

異動のたびに新しい部署の仕事を一から覚えるのは正直大変ですが、県民、民間企業の方と話し合いや折衝を繰り返しながら、行政としてのバックアップや環境づくりをすることにおもしろさを感じます。

多様化していく行政サービスを実現するために、率先して動ける人が向いています。また、行政はチームプレイなので、相手と協調して最善策を見つけることも大切です。



収入はどれくらい?

- 県や市町村ごとに決められ、職種によっても異なります。また、民間企業の給与水準に合わせて決められており、社会状況によっても変わります。群馬県の初任給は、「大学卒程度の学力」「高校卒程度の学力」の試験を受けて就職した場合で、それぞれ約18万円、約14万円です。

どんな資格が必要なの?



- 学歴不問で、一般職では資格は必要ありません。ただし、薬剤師、獣医師、福祉士、保健師、学校栄養士などの技術職では、資格や免許が必要となります。

高校卒業後の進路は?



- 専門学校や大学に進学するのが一般的。近年、多くの地方自治体で採用人数に対する応募者が増え、高学歴化しています。専門学校では、合格に向けたカリキュラムを組んでいるところもあります。また、専門のスクールや通信教育を利用する人もいます。



採用されるためには?

- 各都道府県が実施している上級・中級・初級(群馬県職員では1類、2類、3類)などの採用試験に合格する必要があります。試験科目は職種により異なり、出題範囲は広範囲にわたります。技術職では、職種に必要なとされる専門分野を中心に出题されます。
- 多くの自治体で、受験資格は次のように定められています。年齢は、試験の行われる年の4月1日現在。
<上級・1類>21歳~28歳、大学卒業程度の学力が必要
<中級・2類>19歳~25歳、短大・高専卒業程度の学力が必要
<初級・3類>17歳~22歳、高校卒業程度の学力が必要



看護師

一様々な情報を集めてみました。

どんな内容が書かれているか見てみようー

女子高校生のなりたい職業第1位、男性看護師は全体の4.2%まで増加しています。

看護師の仕事内容とは？

- 病院で、患者を一番近くで支えるのが看護師です。「白衣の天使」とも呼ばれますが、24時間体制での勤務、命と向き合う現場など、肉体的にも精神的にも厳しい仕事です。
- 看護師が活躍する場所は、高齢化社会の進展と共に、老人保健施設、保健所、訪問看護ステーションなど、病院以外にも広がってきています。
- 看護師の仕事は実に様々。検温や血圧測定、注射、点滴などの治療の補助から、食事や入浴の介助、病室の消毒、ベッドシーツの交換など身の周りの世話、心のケアまでこなします。
- 患者を、医師、薬剤師、栄養士、作業療法士など様々な医療関係者でケアする「チーム医療」が一般化しています。その中で、看護師は患者の立場に寄り添い、状態や気持ちをチーム全体に適切に伝える役割を担っています。

看護師に必要な資質・能力とは？

- 科学的な根拠に基づいて患者の状態を正確に観察・判断し、的確に対処できる理性と学識
- 責任感と忍耐力
- 他者を理解し、受け入れる姿勢
- コミュニケーション能力
- 看護師自身の心身の健康



高校卒業後の進路は？

- 大学や短大、専門学校に進学し、そこで必要な専門知識を身に付ける必要があります。養成機関の入試倍率は年度や学校によってばらつきがありますが、大学で4~7倍、専門学校で2~3倍程度です。
- 学費は学校の種類(大学、短大、専門学校)や設置主体(国・公立か私立か、医療機関・医療関係団体などの付属かどうか、など)によってかなり幅があります。各種の奨学金制度を利用することもできます。



どんな資格が必要なの？

- 大学・短大・専門学校で学び、国家試験に合格してなる「正看護師」と、准看護師専門の学校で2年以上学び、都道府県が実施する試験に合格してなる「准看護師」という資格があります。どちらかの資格を取得すると看護師になれる。正看護師と准看護師は同じ仕事をしますが、就職先や給料に差があります。
- 国家試験(正看護師)は毎年2月に実施され、合格率は90%前後です。国家試験に合格しなければ、就職の内定は取り消されてしまいます。合格のボーダーラインは問題の難易度で変わり、得点率60~70%前半です。
- 准看護師の試験は毎年2月に各都道府県で実施され、合格率は正看護師と同様の90%前後ということです。
- 日本看護協会が認定する、医療の高度化に伴い質の高い医療の提供を目指した、専門看護師、認定看護師、認定看護管理者の3つの資格があり、取得する人が増えています。



看護師の1日 ~二交代制と三交代制~



二交代制

勤務を2つの時間帯に分けて行う形態です。病院によって多少の前後はありますが、夕方17:00から翌日の朝9:00までが夜勤です。仮眠をとれる場合もあります。日勤は8:30~17:30までの勤務です。夜勤は週に一回程度あり、夜勤明けの翌日は休暇であることが多いです。一般的に、二交代制では1回あたりの勤務時間が長くなります。

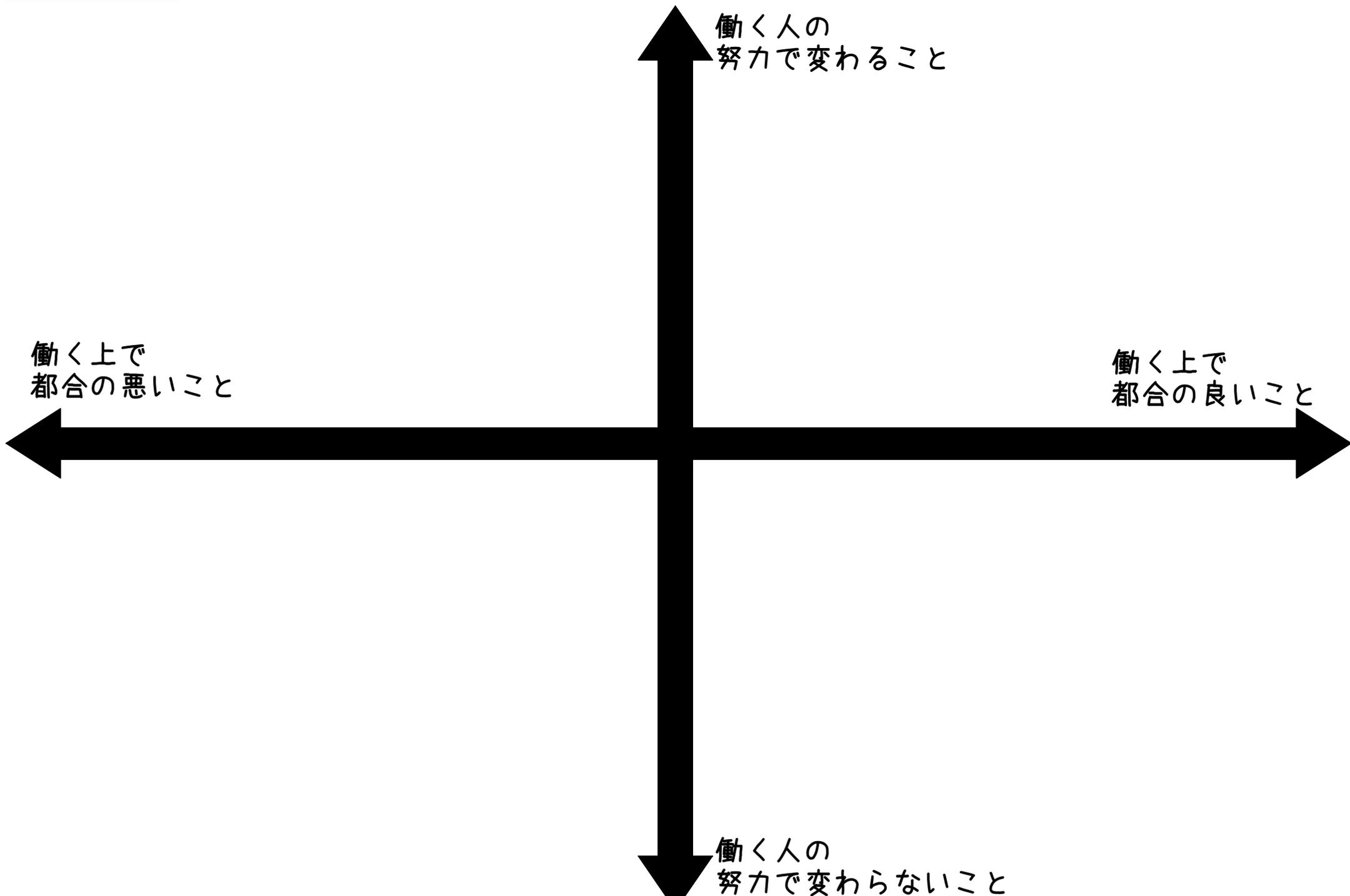
三交代制

1日24時間を8時間ずつ3つの時間帯に分けて勤務する形態です。一般的な「3つの時間帯」は日勤・準夜勤・夜勤(深夜勤)と呼ばれ、日勤が朝8時~夕方16時、準夜勤が夕方16時~夜中の0時、夜勤が夜中の0時~朝の8時で、この順番に勤務して休暇というのが勤務の流れです。二交代制より1回当たりの勤務時間が短いものの、生活リズムを作るのが難しく、三交代制はキツイと言われています。



収入はどれくらい？

- 正看護師の初任給は、大学卒で約25万円です。ただし、手当等により、他業種と比較して初任給は高めになります。また、正看護師か准看護師か、夜勤があるかないかなどの働く形態によって給料はかなり異なります。



■ 3時間目 【学習課題を発見する活動】

- 1 **ねらい** 卒業生や現2年生の学習や進路に関する情報を処理・活用することを通して、自己の学習を振り返り、学習課題を発見する。
- 2 **準備** 卒業生の学習状況や成績状況をまとめた資料（授業後に回収）、ワークシート（自己評価を含む）、プレゼンテーション資料（PC、プロジェクタ使用）
- 3 **展開**

学習活動	時間	指導上の留意点及び支援・評価（◎支援、◇評価）
1 本時の活動の説明を聞く（受験に対する意識を高める時期であることを知る）。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幾つかの選択肢を示しながら、いつ頃から受験に対する意識を高めたいと思っているか、挙手させる。 ・ Benesseの調査結果を交えて、受験意識を高めたい時期について、教員と生徒の考えに差があることを理解させる。 ・ 自らの学習課題を明確にして、進学に向けた学習に取り組むことの必要性を説明する。
2-i 卒業生の学習や成績に関する資料から読みとったことをワークシートに記入する。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配付した資料を分かりやすく説明するために、プレゼンテーション資料を利用する。 ・ 生徒が主体的に考えるように、教員はデータについて説明し過ぎないようにする。 ・ ペアで話し合わせる。
2-ii 以下の六つのデータについて、考えを発表する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> ①Benesse模試 ②国公立合格者とスタディサポートの関係 ③スタディサポート学力段階の推移 ④2年生11月の学習量 ⑤3年生6月と11月の学習量 ⑥合格した大学とスタディサポート学力段階と学習時間の関係 </div>	4分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つのデータについて一人ずつ発表させる。 ・ 聞いている生徒は、発表を聞いて気付いたことを書き記すように伝える。 ◎生徒の発表に対して相づちや繰り返し、要約などをし、発表しやすい雰囲気をつくる。
2-iii 六つのデータについて教師の説明を聞く。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に重要なデータについて詳しく解説する。 ・ 学習量よりも学習方法が重要であることを伝える（部活動などで、長時間の学習ができない生徒への配慮と、学習時間は多いが、自分で考えずすぐに解答を見てしまうなど、学習方法に問題を抱える生徒の気付きを促す）。
3 現2年生の学習状況や成績状況のデータを見る。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現2年生の学習状況や成績状況について、卒業生のデータと比較をしながら説明する（必要なら、生徒に自分の学習の様子を発言させてもよい）。
4 自らの学習状況を振り返り、課題について考える。	6分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題意識をもって自らの学習を振り返るように伝える。 ・ どのような課題があるか、できるだけ多く挙げさせる。
5 教員による本時の活動のまとめを聞き、自分の学習状況を振り返る。	4分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生の残りの数ヶ月が、学力向上にとっていかに重要な時期であるかを伝える。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◇活動全体に積極的に取り組むことができたか。 ◇卒業生の学習や成績についての情報を処理・活用することで、この時期の学習の大切さを理解できたか。 ◇卒業生や現2年生の成績状況を基に、自分の学習を振り返ることができたか。 </div>

学習課題を発見することについて

1 本時の活動について (10分)

- いつ頃から受験に向けた学習を始めればよいと思うか。

自分が考える時期 _____

資料を踏まえた時期 _____

2 卒業生の学習データから本校生徒の特徴を知る (22分)

- ①～⑥の資料から読み取れたこと、感じたことを書き出す。

① ベネッセ模試 国数英総合偏差値の推移

② 国公立大合格者数とスタサポ学力段階の関係

③ スタサポ成績概況の学年間推移

④ 2年生11月の学習量

⑤ 3年生6月と11月の学習量

⑥ 合格した大学とスタサポ学力段階と学習時間

3 現2年生の状況を確認する (8分)

- 資料から読み取れたこと、感じたことを書き出す。

4 自分の学習課題について考える (6分)

- 本時の活動を基に、自分の学習方法を振り返り、学習課題を挙げる。

5 本時のまとめ (4分)

- ◇ 活動全体に積極的に取り組むことができましたか。

とても良く取り組んだ . 良く取り組んだ . あまり良く取り組めなかった . 良く取り組めなかった

- ◇ 卒業生や現2年生の学習状況を知るとは、自分の学習を振り返ることに役立ちましたか。

とても役に立った . 役に立った . あまり役に立たなかった . 役に立たなかった

- ◇ 本時の活動を通して、気が付いたことや考えたこと、これからやろうと思ったことなどを書いてみましょう。

2年 組 番 氏名 _____

現2年生の学力推移と学習量

①

Benesse模試 国数英総合偏差値推移

benesse模試、1年から3年までの「国数英総合偏差値」の推移を表す折れ線グラフ

②

現2年生 スタサポの推移

スタディサポート学力段階の1年1回から2年2回までの推移を表す棒グラフ

③

1日の平均学習時間(教科別)

教科別の学習時間の推移

④

学習量別の人数割合(1年6月)

1年6月における、全員の学習時間の割合

⑤

学習量別の人数割合(1年11月)

1年11月における、全員の学習時間の割合

⑥

学習量別の人数割合(2年6月)

2年6月における、全員の学習時間の割合

H24 卒業生の学力推移と学習量

①

Benesse模試 国数英総合偏差値推移

1年から3年までの「国数英総合偏差値」の推移を表す折れ線グラフ

②

国公立合格とスタサポ(3年1回)の関係

スタディサポートの学力段階と国公立の合格者の割合を示す表

③

スタサポ学力段階の推移

スタディサポート学力段階の1年1回から3年1回までの推移を表す棒グラフ

④

2年生11月の学習量

2年生全員の、1日当たりの学習量の分布

⑤

3年生6月、11月の学習量分布

3年生全員の1日当たりの学習時間について、割合を表す分布

⑥

合格した大学(学力試験あり)とスタサポ学力段階と学習時間

合格した大学と、合格した生徒の学習量やスタディサポートの学力段階との関係が分かる表

■ 4 時間目 【学習課題や学習方法に関する考えを広げる活動】

- 1 **ねらい** グループ活動を通して、個々の生徒の学習課題を整理することによって、生徒が自己の学習課題や学習方法に関する考えを広げる。
- 2 **準備** ワークシート、付箋紙 1 グループ 1 束 (100枚)、K J法のシート、マジック、プレゼンテーション資料 (PC、プロジェクト使用)
- 3 **展開**

学習活動	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎支援、◇評価)
1 本時の活動の説明を聞く。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の中で自由に使える時間がどれだけあるか考えさせる。 ・ 学習時間には限りがあり、学習課題を明確にし、学習計画をしっかり作成することが大切であることを説明する。
2 全科目から、学習課題を挙げる (一人10枚以上が目標)。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題は具体的に書く。例えば、「英語」や「英単語」では適切な学習計画の作成に結び付きにくい。「2年生の単語テストに出題されたすべての英単語を覚える」など、より具体的にすることを伝える。
3-i K J法により、似ている学習課題をまとめ、「見出し」をつける。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時と同じグループを作るように伝える。 ・ K J法のシートに、付箋紙を貼りつけて分類させる。貼りつけと分類は、グループで相談しながら進めるよう伝える。 ・ 分類した付箋紙をグループ化し、「見出し」を付けさせる。
3-ii K J法の結果を踏まえて、気になった (自分に当てはまる) 学習課題をワークシートにすべて記入する。	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの学習課題を明確にするための活動であることを伝える。 ・ できるだけ多くの課題を挙げさせる (自分に多くの課題があると知ること、計画的に学習を進めることの重要性に気付かせる)。
4 3-ii で書き出した学習課題を基に、自らの学習課題の一つを選び、その課題に対する適切な学習方法を考える。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題の一つ考えるときには、次のことに注意させる。 <ol style="list-style-type: none"> ①優先すべき課題を考える。 ②課題を細かくとらえる (「数学」ではなく、「数列」などの単元単位の目標にする)。 ・ 学習方法については、実行可能な学習方法を考えるように伝える (実行にかなりの困難が見込まれるようなものや、高い理想は避ける)。 ◎机間支援を行い、作業が進んでいない生徒に助言を行う。
5 学習課題とそれに対する学習方法について発表する。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間内でできるだけ多くの生徒に発表させる。 ・ 発表を聞いて、他の生徒の学習方法に気付かせることで、個々の生徒の考えが広がるようにする。
6 教員による本時の活動のまとめを聞き、自分の活動を評価する。	4分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人一人の学習状況は違うので、自分に合った学習方法を見つけるように伝える。 ・ 実行可能な学習方法にするとともに、学習を実行する際には、時には自らを振り返り、うまくいっていないところを改善することが大切であることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◇活動全体に積極的に取り組むことができたか。 ◇グループ活動に積極的に参加できたか。 ◇本時の活動を通して、学習課題や学習方法に関する自分の考えを広げることができたか。 </div>

学習課題と学習方法に関する考えを広げることにについて

1 本時の活動について (8分)

- 1日に自由に使える時間はどれくらいあるか(学校にいる時間や食事・睡眠等の時間を除く)。

平日 _____ 時間 _____ 分

2 自分の学習課題を付箋紙に書き出す (8分)

- できるだけたくさんの学習課題を付箋紙に書き出す(10個程度)。様々な科目を振り返って考え、「やる気がでない」などの意欲にかかわる内容は避ける。

3 グループで、KJ法を使って学習課題を分類し、自分の学習課題を書き出す (①10分+②2分=12分)

- ① 同じような内容の付箋紙を近くにまとめ、「見出し」をつける。「見出し」は内容を分かりやすく伝えるものにする(下記参照)。

(例) 生活上の問題点について



- ② KJ法のシートを見て、気になった(自分に当てはまると思った、自分も克服しなければならないと思った)学習課題を書き出す。

4 学習課題を一つ選び、学習方法を考える (8分)

- 3-②で書き出したものの中から課題を一つ選び、適切な学習方法を考え(「いつ」、「どこで」、「どんな方法で」などをできるだけ具体的に!)

課 題
学習方法

5 活動の発表 (10分)

- 発表を聞いて、「自分の学習の参考にしたい」と思ったことなどを記入する。

6 本時のまとめ (4分)

- ◇ 活動全体に積極的に取り組むことができましたか。

とても積極的に取り組んだ 積極的に取り組んだ あまり積極的に取り組めなかった 積極的に取り組めなかった

- ◇ 自分の学習課題の発見や学習方法を考える上で役に立ちましたか。

とても役に立った 役に立った あまり役に立たなかった 役に立たなかった

- ◇ 本時の活動を通して、気が付いたことや考えたこと、これからやろうと思ったことなどを書いてみましょう。

2年 組 番 氏名

英語

国語

数学

学習課題

理科

地歴・公民

その他

二者面談でのコーチングの進め方

1 二者面談におけるコーチングの有効性

二者面談は年間を通して数回行われており、学習や進路に関する問題解決が中心です。そのためには個々の生徒が抱える問題をきちんと把握することが大切になります。二者面談では、生徒が抱えている問題や悩みを聞き出し、教員がその解決策を提案する(ティーチング)のが一般的です。それに対して、コーチングは生徒自身から「考えを引き出す」ことを基本にしています。元々、スポーツ指導者や会社経営者に共通した指導方法をまとめたもので、人のやる気や能力を高めるのに有効とされています。そのため、二者面談のような生徒の問題解決にもコーチングが有効だと考えます。

2 コーチングを行う教員の基本姿勢

コーチングマインド



- ◆生徒の可能性を信じている
- ◆答えは生徒がもっている
- ◆コーチ(教員)は生徒の味方である

3 コーチングにおける三つのスキル 傾聴

教員は自分の判断は
わきに置いておく!

教員が話し過ぎない
よう注意する!



話を引き出す方法

- ・座る位置 (正面より「ハの字」)
- ・うなずき (心のこもったもの)
- ・繰り返し (「そうか〇〇なんだね」)
- ・要約 (つまり〇〇と考えているんだね)
- ・沈黙 (間を置くことで考えの整理を促す)

コーチングにおいて、最も重要とされるのが「傾聴」です。クライアント(生徒)は、話を受けとめてもらうことで自己を客観的に見ることができ、考えを明確にしやすくなります。また、肯定してもらえたという安心感を得るため、自信につながります。これが「話をしたらスッキリした」の理由です。つまり、答えはすでにその人の中にあっただけです。

二者面談では、一般に教員は生徒の話を聞きながら状況を判断し、解決策を考えます。そして、教員が考えた解決策を中心に話を進めていきます。それに対してコーチングでは、教員自身の判断をわきに置き、生徒の話から事実を把握していきます。解決策についても、教員の適切な質問により生徒の考えを引き出し、問題解決の方向へ導きます。指示されることより自発的な行動の方が、課題解決につながりやすいものです。生徒が話すことを、徹底して傾聴することを基本とするとよいでしょう。

質問

「どうして」や「なぜ」は禁句!

→「何」を使った質問を!

- ・NG なぜ〇〇できないの?
- ・OK 〇〇できない理由は何?
- ・OK 〇〇を邪魔するものは何?



状況に合わせて質問の仕方の工夫を!

→事実をとらえやすい質問を!

あいまいな質問の例

- 【教員】どれくらい頑張ってる?
- 【生徒】まったく頑張れていません

答えやすい質問の例

- 【教員】最高を10とするとどれくらい頑張ってる?
- 【生徒】6くらいしかやれてません

「質問」が「詰問」にならないように!

話を引き出そうとしても、回答に詰まってしまう生徒も多いと思います。回答できないのは考えをもっていないからではなく、考えを整理できていないのが原因であることが多いので、質問方法を工夫することが有効です。例えば、「数学のどこが苦手か」という質問には「全部」と答えてしまう生徒でも、「2年生になって学習したAとBとCの中で、努力すれば何とかなりそうなものはどれ」などと回答を限定するような質問にすると、生徒は具体的な事柄について答えやすくなります(図1)。

また、課題や問題の原因に焦点を当てて話を進めるのは、あまり好ましくありません。こうした問題追求型解決法は成功に結びつきにくいと言われています。実際に、問題は複数の原因によって生じていることが多いので原因を特定するのが難しく、原因が家庭状況や部活動などの、分かっても解決策を見いだしにくい場合があるからです。原因にかかわらず、課題に対してどのような目標を設定し、どのような方法で解決するのかを生徒に考えさせるように、話を進めた方が効果的です。

図1 レポートリーを広げる質問の種類

種類	質問の特徴
① Yes/Noで尋ねる質問	事実関係の確認や意思を明らかにするための方法
② Yesを引き出す質問	話したことの確認や自覚を促すときの方法
③ Noを引き出す質問	やる気を高めたいときや高めの目標を設定するときの方法
④ 自由回答で意見を尋ねる質問	気持ちや思い、アイデアを引き出すための方法
⑤ 自由回答で事実を尋ねる質問	5W1Hの質問を利用し、正確な情報を明らかにするための方法
⑥ 選択肢を選ぶ質問	答えにくい質問に対して、答えやすくする方法
⑦ 数字で答える質問	程度の違いを数字で表す方法

承認

「褒める」や「認める」は、生徒が頑張るための原動力



幼い子は褒められるとその行動を繰り返す行おうものです。リーダーシップのある生徒は、教員から認められていることも、行動の原動力になっています。承認は、相手に安心感ややる気を与える「魔法のことば」と言えます。

生徒をよく観察し、様々な機会に良い面を見つけて褒めることが大切です。褒め上手のポイントは観察にあると言えます。無理に褒めるのは逆効果になるので注意してください。

4 OSKARモデルによる面談の進め方

コーチングの手法の一つで、様々な場面で紹介されている一般的なモデル。短時間の面談で目標を設定するのに有効な手法。

OSKARモデル

① **Outcome** 問題に対して、欲しいゴールを定める

現在抱えている問題を基に、なりたい自分を想像し、どのような状態を目指すのかを確認させる。問題原因の改善をゴールとさせないようにする。

② **Scale** ゴールに対する現在の状態を確認する

状態の確認にはスケール（ものさし）を利用する。「全然できていない」などの主観的な表現からは、具体的な状況はとらえにくいので、10段階のスケールで自分がどの位置か具体的にとらえさせる。

③ **Know-how** ゴールに近づけるための方法を考える

ゴールを10段階の10としたとき、いきなり10を目指すのではなく、スケールで今より一段階上げるための方法を考えさせる。例えば、10段階で5を10に上げるのではなく、5を6に上げる方法を考えさせる。その際、解決方法を始めから一つに決めようとする、レベルの高い方策を挙げてしまうことが多く、実現が難しくなってしまう。できる限り多く上げさせ、最も実行可能な解決方法を一つ選ばせる。

④ **Affirm & Action** 褒める、応援の気持ちを伝える

褒められたり期待されることで、人のやる気は高まる。ただし、大げさな言い方や口先だけの言葉は逆効果である。一見しただけでは気付きにくい日常の行動に注目し、具体的に褒めると効果的である。

事後指導

⑤ **Review** 実践してみたの感想、達成度の確認をする

振り返りは重要である。生徒自身が課題解決に向けて前向きな姿勢でいるなら、徐々に達成度は上がると考えられるので状況を見守るとよい。一方、依然として前向きな姿勢が見られず、達成度も芳しくない場合は、もう一度面談等を実施する。

～ 二者面談でコーチングを行うときの留意事項 ～

● **コーチングは、人のやる気や能力を伸ばすコミュニケーション技術**

「これをすれば必ずうまくいく」という魔法のような手法ではありません。コーチングを繰り返し行うことで、生徒とのコミュニケーションが円滑になり、指導のレパートリーを広げることができ、指導力が高まります。

● **コーチングをうまく進めるためのポイント**

最低限の条件は、「生徒が面談を受け入れる状態にある」ことです。具体的には以下のとおりです。

① 生徒と教員の間的良好な人間関係が形成されていること

時には生徒を厳しく指導しなければならないときもあります。しかし、別の機会をとらえ、承認の声かけを通して信頼関係を結んでおくことが大切です。

② 生徒が問題意識をもち、向上心を失っていないこと

生徒自身が問題解決を必要としていない（自分には問題がないと思っている）場合、問題解決型の面談をそのまま行ってもうまくいきません。まずは本当に問題はないのか、本当にうまくいっていないところはないのか探させます。傾聴に徹し、生徒自身に気づきを促すことが大切です。こうした気づきが、面談を受け入れるきっかけになります。このような方法は、自己肯定感が低い生徒や向上心を失っている生徒、また、問題を他人のせいにしてしている生徒にも有効です。

様々な学習状況の生徒に学習目標を設定し、学習計画を立てさせる面談

努力をしている生徒や自分に自信のある生徒には、「他にはどんな方法が考えられる？」と問いかけ、自己の学習に対して疑問を抱かせ、生徒が考えを広げられるように導きます。努力ができていない生徒や行き詰まり感をもって
いる生徒には、スモールステップの解決策を引き出せるように問いかけるとよいと思います。

Part 1

課題や問題を絞り、明確にしていく

多くの生徒は複数の課題を抱えています。生徒は課題を挙げていく中で、本当の課題や優先して取り組むべき課題に気が付きやすくなります。ここでは、教員は「傾聴」に徹し、「うなずき」「繰り返し」などを行うとともに、「他には」の問いを取り入れて生徒の考えを引き出します。

《導入》

教員 最近、勉強の調子はどう？

生徒 そろそろ始めないといけないとは思っているんですが…。

《考えを広げる段階》

教員 そうか。じゃあ、A子さんの学習の課題は、何が挙げられる？

生徒 数学ですね。後は、英語の長文も読めないし…。

教員 へー。数学と英語の長文ね。他には？

生徒 あ、古典の文法も苦手です。

教員 他には？

生徒 そういえば、英単語テストもきちんとやれてないな…。

教員 数学に英語の長文、古典文法と英単語、こんなところ？

生徒 まだまだありそうな気もするけど…。

教員 他には世界史とか、現代文とかも勉強しているよね。

生徒 そうだ！世界史。小テストをやってるけど、クラスの平均点に届いてないんだ。

教員 他にもまだある？

生徒 とりあえず、こんなところかな。

《まとめる段階》

教員 色々出てきたねえ。

生徒 やばいな～。

教員 今、話してくれた中で、特に大きな問題になっているのは何？

生徒 数学…

教員 数学か。でも、受験で必要なんだよね。数学の何が問題？

生徒 全部、全然分からない。でも、数学は必要…。

教員 そう、全部か。全然分からないんだ。じゃあ、その中で少しだけましなのは何？

生徒 二次関数とか、因数分解とかはまし。
教員 じゃあ、絶対無理だ〜っていうのは何？
生徒 ベクトル。
教員 ベクトルは、今のところ無理ってことかな。じゃあ、頑張ったらどうにかなりそうなの？
生徒 三角関数かな…。

Part 2

学習目標を自分で設定 (Outcome) し、その達成に向けた方法 (Know-How) を明確にする

目標が適切でなければ、適切な学習方法を思いつくことはできません。「とりあえず頑張って学習をする」から「目標達成のために学習する」に変えていく必要があります。目標と現状の差を正確に測り、いつまでに課題を達成するかを考えた上で、短期目標（第一段階として何を達成するのか）を定めていく必要があります。ここでは「傾聴」に加えて、適切な「質問」によって生徒の考えを引き出します。

①Outcome 欲しいゴールを定める

教員 よし、じゃあ、三角関数で考えてみよう。
 どんなことを目標にする？

生徒 模試で、偏差値 50。学校のテストも、60 点くらい取りたいかな…。うん、65 点かな。

②Scale ゴールに対する現在の位置を確認

教員 じゃあ、その目標をものさしで「10」とすると、今の自分はいくつくらい？

生徒 4か5。

教員 それを 10 にするためには、何すればよいと思う。

生徒 教科書の例題と問い、問題集の基本問題ができればいいって、先生が言った。

教員 それを実現するためにどんな勉強をしようか。まずは4とか5をいきなり10にするのは大変だから、まずは6を目指すのはどう？そのためには、まずは何をしたらいい？

生徒 問題集を自分の力で解く。

教員 自分の力で問題集を解くのか。他には？

生徒 うーん…。自分で解けないから困ってるんだよな。あ、授業をちゃんと聞いて、分からないところをすぐ先生に聞こうかな。

教員 どちらの方法でやってみる？やりやすいのはどっちだろう。

生徒 とりあえず、授業を聞いて分からないところをすぐに先生を聞くようにする。

教員 そうだね。とりあえずやってみて、また、もっとよい方法を考えてもいいよね。
 授業をきいて、分からないところをすぐ先生に聞く。そうすれば、問題集を自力で解けるようになるかもしれないね。

③ Know-How ゴールに近づくための作戦を決める

④Affirm & Actoin 応援するメッセージを伝える

生徒 はい、頑張ってみます。

教員 A子ならきっとできるよ。応援しているからね。

部活動を理由に、なかなか勉強に身の入らない生徒への面談

《導入》

教員 最近、勉強の調子はどう？

生徒 そろそろ始めないといけないと思っているんですが…。

《考えを広げる段階》

教員 B君が勉強を始められない理由って何？

生徒 部活が忙しくて…。この成績じゃあ、勉強やらなくちゃマズイのは分かっているんです。でも、毎日ヘトヘトで、すぐ寝ちゃいます。

教員 そうか、部活ね。忙しいから、疲れて寝ちゃうってことかな？

生徒 そうですね。2年生が中心になってからは、本当に大変で。でも、部活は頑張りたいんです。

教員 そうだよな。やっぱり、部活は部活でしっかり取り組むのは大切だものね。

じゃあ、どうにかして学習時間を作れないか考えてみようか。帰宅してから、ずっと寝ているの？

生徒 いえ、テレビ見たりスマホいじったりは…。

教員 じゃあ、平日に帰宅する時間は何時？

生徒 7時30分頃です。

教員 何時間くらい寝る時間は必要？

生徒 7時間くらいは必要かな～。

教員 部活で疲れているんだし、7時間くらいは必要だよな。何時に寝て、何時に起きる？

生徒 12時に寝て、7時に起きます。

《まとめる段階》

教員 そうか。ということは、帰宅してから自由に使える時間は4時間30分ある。その中で、どれくらいの時間なら勉強に充てられるかな？

生徒 食事と風呂、それから息抜きも少しはしたいし…。2時間くらいかな。

教員 2時間ね。やれるかな？

生徒 やってみます。あとは、学校の休み時間とかうまく使って単語学習とかしてみようかな。

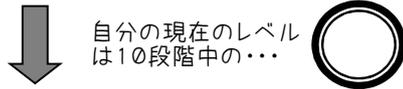
教員 言い考えだね。その意気で頑張る。応援しているよ。

学習計画の作成 と 活動のまとめ



● 学習目標と学習方法について

学習目標 (最終的な到達点)	
--------------------------	--



第一段階の目標 (中間的な到達点)	
学習方法など	

● 活動のまとめ

1 4時間の総合的な学習の時間での活動と二者面談を通して、以前よりも適切な学習計画を立てられるようになったと思いますか。

とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
---------	------	-----------	----------

2 4時間の総合的な学習の時間での活動と二者面談を通して、これから学習をしていく上で気を付けようと思ったことや、これから心掛けようと思ったことなどがあったら書いてください。

--



学習計画の振り返りと今後に向けて

もうすぐ3年生になります。学習は思うように進んでいますか。進学に向けてやらなければならないことが色々と思いつかぶことと思います。これからは、学習計画を立ててしっかり取り組まなければ、あっという間に時間が過ぎてしまいます。11月に2年生3月までの学習計画を立てましたが、その後どうでしょうか。うまく実行できていますか。自分の学習を振り返ってみましょう。

1 進学を考えて、学習をすることができますか。

かなりできている

少しできている

あまりできていない

全くできていない

2 この時期（2年生3月）に、進学に向けた学習を始めておく必要があると思いますか。

とても思う

少し思う

あまり思わない

全く思わない

3 11月の面談後に立てた学習計画は、実行できていますか。

かなりできている

少しできている

あまりできていない

全くできていない

4 11月の面談後に学習計画を立てたとき、重視した項目にチェックを入れて下さい（複数回答可）。

- 学習する内容 学習する方法 どんな教材(問題集)を使うか
- いつまでに学習を終わらせるか(課題を達成するか) 1日の学習時間
- どの時間帯にやるか(通学時、朝など) 不得意な科目の克服 得意科目を伸ばす
- 自分にとって実行可能な中身になっているか(無理のない計画になっているか)
- 学校の課題と両立できるか 授業の予習・復習の時間の確保

5 3で「少しできている」「あまりできていない」と回答した人は、実行できなかった原因として当てはまるものにチェックを入れて下さい（複数回答可）。

- 計画にたくさん盛り込み過ぎてしまったから。
- 授業の予習・復習や学校で出される課題にかかる時間を考慮せずに計画を立ててしまったから。
- もっと他にやらなければならない学習があることに気付いたから。
- なんとなく、実行する気にならなかったから。
- あまりしっかり考えずに計画を立ててしまったから。
- 計画を立てるとき、目標を高くし過ぎてしまったから。

6 今後の学習計画を作成する上で、どのようなことを考慮して計画を立てようと思いますか。

2年 組 番 氏名